



取扱説明書

音声セキュリティシステム

VS-900

このたびは、TOA 音声セキュリティシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA 株式会社

目次

本書をお読みになる前に

はじめに	7
本書の内容	7
システム構成の例	8

第1章 サブステーションの操作

各部の名称

屋内用サブステーション RS-150	1-2
屋内用堅牢型サブステーション RS-160、 屋外用堅牢型サブステーション RS-170	1-2
呼び出し表示灯付きサブステーション RS-180	1-2
屋外型同時通話サブステーション RS-190、 オプションハンドセット（屋内専用） RS-191	1-2

サブステーションの操作

呼び出ししかた

呼び出しボタンでの操作	1-3
オプションハンドセットでの操作 （RS-190 と RS-191 を組み合わせた場合のみ）	1-4
呼び出し時間制限	1-4
呼び出されたとき	1-5
通話方式	1-5
サブステーションの優先度	1-5

第2章 マスターステーションの基本操作

各部の名称とはたらき	2-2
------------------	-----

マスターステーションの操作

サブステーションの呼び出ししかた	2-3
マスターステーションの呼び出ししかた	2-4
呼び出されたとき	2-5
通話方式	2-6
通話時間制限	2-7
通話の録音	2-7
発呼端末表示および選択応答	
発呼端末表示	2-8
選択応答	2-9

オートダイヤル機能の使いかた	
オートダイヤルキーを使った呼び出し	2-10
オートダイヤルキーの登録	2-10
オートダイヤルキーの登録を消去する	2-11
オートダイヤルキーの登録確認	2-12
リダイヤル	2-13

第3章 便利な機能

呼び出しに関連した機能

グループ呼び出し

機 能	3-2
グループ呼び出しの操作	3-2

転送に関連した機能

転 送

機 能	3-4
転送の操作	3-5

自動転送に関連した機能

不在転送

機 能	3-8
登録のしかた	
自席の端末（転送元）からの登録および消去	3-8
転送先端末からの登録および消去	3-9
不在転送の操作	3-9

時刻連動不在転送

機 能	3-10
登録および消去	
登録	3-10
消去	3-11
時刻連動不在転送の操作	3-11

不応答転送

機 能	3-12
登録および消去	
登録	3-12
消去	3-12
不応答転送の操作	3-13

話中転送	
機能	3-14
登録および消去	
登録	3-14
消去	3-14
話中転送の操作	3-15

モニター（監視）に関連した機能

スキャンモニター	
機能	3-16
スキャンモニターの操作	3-16

ページング関係の機能

ゾーンページング	
機能	3-18
ゾーンページングのダイヤル操作	3-18

一斉ページング	3-19
一斉ページングのダイヤル操作	3-20

緊急一斉ページング	
機能	3-20
緊急一斉ページングのダイヤル操作	3-21

外部音源の放送	
機能	3-22
外部音源放送の操作	3-22

ページング時間制限	
機能	3-23

ページングリダイヤル	
機能	3-23
ページングリダイヤルの操作	3-23

局線に関連した機能

局線発信	
発信ダイヤル操作	3-24

局線着信（ダイレクトインライン）	
ダイレクトインラインの機能	3-25
ダイレクトインラインの操作	3-25

局線着信（ダイレクトインダイヤル）	
ダイレクトインダイヤルの機能	3-26
ダイレクトインダイヤルの操作	3-26
局線接続時間制限	3-27
局線通話の録音	3-27
局線への不在転送	
機 能	3-28
登録および消去	
登録	3-28
消去	3-28
局線への不在転送の操作	3-29
局線への時刻連動不在転送	
機 能	3-29
登録および消去	
登録	3-30
消去	3-30
局線への時刻連動不在転送の操作	3-31
局線への不応答転送	
機 能	3-32
登録および消去	
登録	3-32
消去	3-32
局線不応答転送の操作	3-33
局線への話中転送	
機 能	3-34
登録および消去	
登録	3-34
消去	3-34
局線話中転送の操作	3-35

会議に関連した機能

3 者会議（個別呼び出し会議）

機 能	3-36
3 者会議のダイヤル操作	
3 者会議を行う方法	3-36
2 者間通話から 3 者会議を始める方法	3-38
3 者会議の操作の詳細	3-39

緊急会議

機 能	3-40
緊急会議のダイヤル操作	3-40

第 4 章 ダイヤル操作と優先順位の概要

マスターステーションの操作一覧表	4-2
------------------------	-----

優先順位

呼び出し優先	
呼び出し優先順位および呼び出し音（マスターステーションへの呼び出し）	4-3
サブステーションへの呼び出し	4-3
通話路優先	4-4

第 5 章 パソコン制御の機能

パソコンインターフェースソフトの役割	5-2
--------------------------	-----

システムプログラミング（データの設定）

システム設定	5-2
回線設定	5-2
機能設定	5-4

保守・制御機能	5-6
---------------	-----

VS-900DIJ の設定	5-6
---------------------	-----

本書をお読みになる前に

はじめに

本書では、TOAの音声セキュリティシステムで使用する端末（マスターステーションおよびサブステーション）の機能と操作を説明しています。また、特定の種類の端末のみで利用できる機能も記載しています。この音声セキュリティシステムでは、パソコンを使って、システム構成（本書では「システムプログラミング」としています）に応じて機能のパラメーターやその他の詳細仕様（例：端末番号の割り当てあるいは番号の桁数や端末の名称の登録）を、自由に、効率よく設定できます。なお、本書ではダイヤル操作や表示内容を、上記の設定を使って説明しています。

本書の内容

本書は、次の5章に分かれています。

第1章 サブステーションの操作

この章は必ずお読みください。

第2章 マスターステーションの基本操作

マスターステーションをお使いの場合は必ずこの章をお読みください。

第3章 便利な機能

この章で説明している便利な機能を最大限にお使いになれば、円滑でより一層効率的な連絡が可能になります。

第4章 ダイヤル操作と優先順位の概要

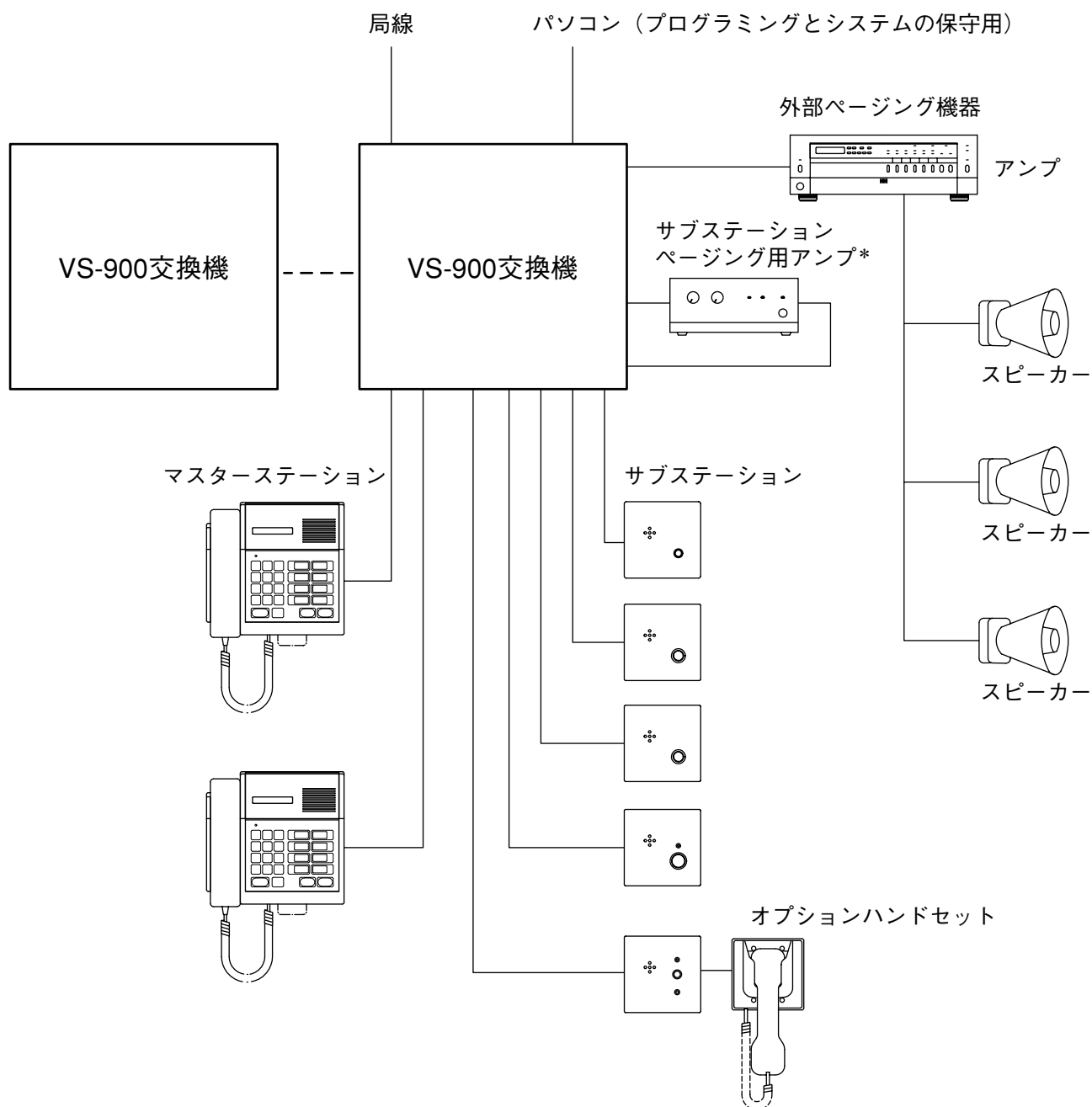
1～3章で説明した機能と操作のすべてを要約したものが一覧できます。

第5章 パソコン制御の機能

この章では、システムのオペレーターが操作・変更できる機能を説明します。この章で紹介されているのは、システムプログラミング、リモートダイヤル、制御、システムの監視、保守およびパソコンソフトで動作させることができるその他の機能です。操作の詳細については、別冊の「VS-900 設定ソフト取扱説明書」を参照してください。

システム構成の例

図は、システム構成と本書で説明されている主なシステム機器を示しています。



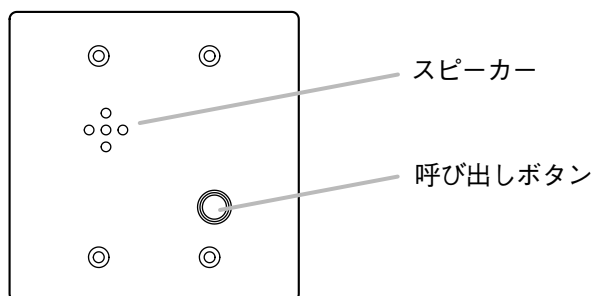
* サブステーション RS-150、RS-160、RS-170、RS-180 のページングには、外部アンプが必要です。
サブステーション RS-190 のページングには、外部アンプは必要ありません。

第1章

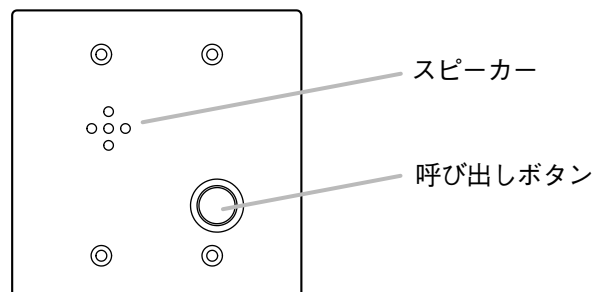
サブステーションの操作

各部の名称

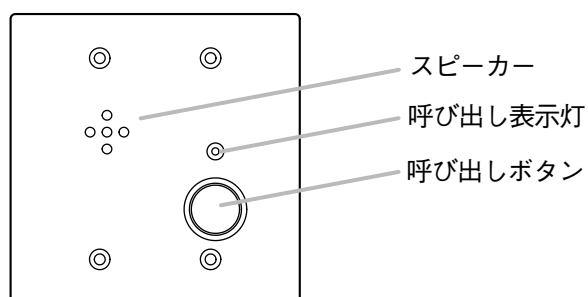
● 屋内用サブステーション RS-150



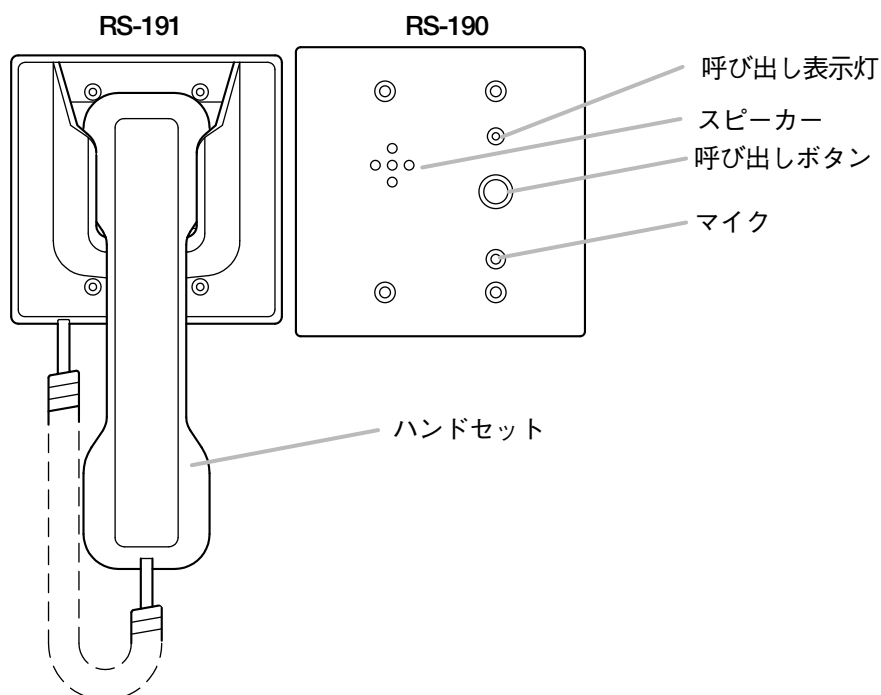
● 屋内用堅牢型サブステーション RS-160、 屋外用堅牢型サブステーション RS-170



● 呼び出し表示灯付きサブステーション RS-180



● 屋外型同時通話サブステーション RS-190、オプションハンドセット（屋内専用）RS-191

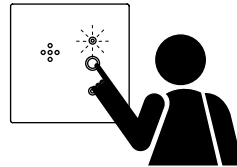


サブステーションの操作

■ 呼び出した

● 呼び出しボタンでの操作

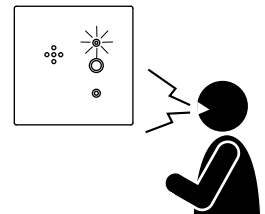
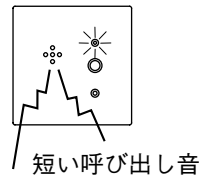
- 1 パネルの呼び出しボタンを押す。
設定されたマスターステーションが呼び出されます。
※ 呼び出し表示灯が点滅します。(RS-180、RS-190のみ)



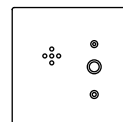
[システム設定]

設置時に、各サブステーションに対応するマスターステーションをシステムプログラミングで登録する必要があります。

- 2 呼び出し音が聞こえたら、パネルに向かって話す。
マスターステーション側が応答すれば、短い呼び出し音が鳴ります。
※ 点滅していた呼び出し表示灯は、点灯の状態に変わります。(RS-180、RS-190のみ)
※ ハンドセットを持ち上げると、秘話通話ができます。(RS-190 と RS-191 を組み合わせた場合のみ)



- 3 マスターステーション側のハンドセットを置くか、[C] キーを押すと、通話が終了する。
※ 呼び出し表示灯は消えます。(RS-180、RS-190のみ)
※ ハンドセットを置くと、通話が終了します。(RS-190 と RS-191 を組み合わせた場合のみ)

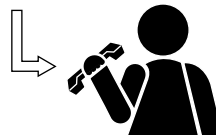
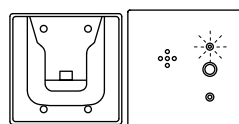


● オプションハンドセットでの操作（RS-190 と RS-191 を組み合わせた場合のみ）

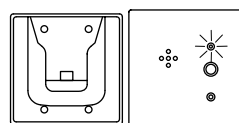
- 1** ハンドセットを持ち上げる。
設定されたマスターステーションが呼び出されます。
RS-190 の呼び出し表示灯が点滅します。

[システム設定]

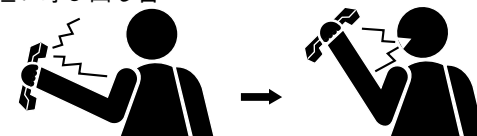
設置時に、対応するマスターステーションをシステムプログラミングで登録する必要があります。



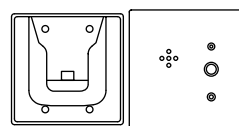
- 2** 呼び出し音が聞こえたら、ハンドセットで通話する。
マスターステーションが応答すれば、ハンドセットのスピーカーから短い呼び出し音が鳴ります。
呼び出し表示灯が点滅から点灯に変わります。



短い呼び出し音



- 3** ハンドセットを置く、またはマスターステーションがハンドセットを置くか、[C] キーを押すと、通話が終了する。
呼び出し表示灯は消えます。



■ 呼び出し時間制限

サブステーションからの呼び出しは、特定の時間内に応答がなければ、自動的に終了させることができます。

[システム設定]

- この機能を使うには、システムプログラミングで呼び出し時間制限機能を使用可能にする必要があります。
- 呼び出しの制限時間を1分単位で1～99分の間で設定してください。

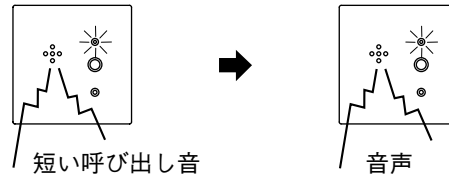
ご注意

緊急用サブステーションから呼び出したときは、呼び出し時間制限機能は働きません。

■ 呼び出されたとき

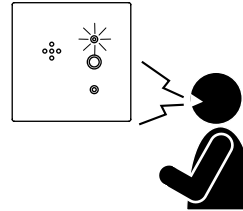
- 1** 短い呼び出し音に続いて、発呼者側の音声がかかります。

※ 呼び出し表示灯が点灯します。(RS-180、RS-190のみ)



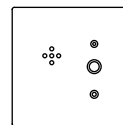
- 2** パネルに向かって話す。

※ ハンドセットを取り上げると、秘話通話ができます。(RS-190 と RS-191 を組み合わせた場合のみ)



- 3** マスターステーション側のハンドセットを置くか、[C] キーを押すと、通話が終了する。

※ 呼び出し表示灯は消えます。(RS-180、RS-190のみ)



■ 通話方式

[RS-150、RS-160、RS-170、RS-180 の場合]

- 相手の音声はスピーカーから聞こえます。
- 相手が話している間は、こちらからの音声は相手に聞こえません。相手が話し終わってから話してください。
- 相手が話していない間は、サブステーションのスピーカーはマイクの働きをし、こちら側の声を相手に伝えます。(この通話方式をトークバック方式と呼びます。)

[RS-190 の場合]

通話相手やその状態により、下記のとおり通話方式が異なります。

- ハンドセットを置いたマスターステーションと通話するときや、局線と通話するときには、トークバック方式になります。
- ハンドセットを持ち上げたマスターステーションと通話するときには、拡声同時通話になります。

[RS-191 の場合]

- 普通の電話の方式と同じように、秘話同時通話になります。

■ サブステーションの優先度

設置するときに、任意のサブステーションをシステムプログラミングで緊急用サブステーションとして登録できます。

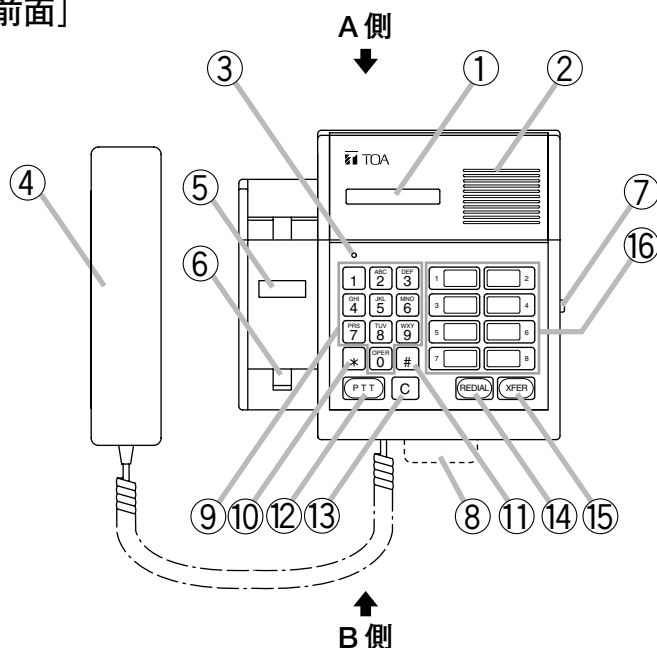
マスターステーションを呼び出すとき、緊急用サブステーションが優先します。

第2章

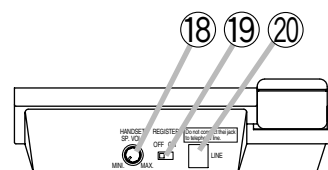
マスターステーションの 基本操作

各部の名称とはたらき

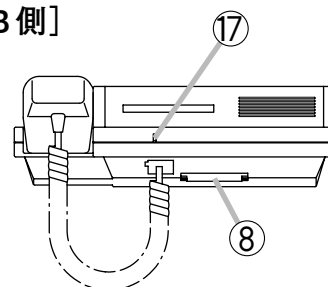
[前面]



[A側]



[B側]



① 表示部

接続状態と登録されたデータを表示します。

② 内部スピーカー

呼び出し音を鳴らし、また、ハンズフリー通話ができます。

③ 使用中表示灯

本機を使っているときに点灯します。

④ ハンドセット

呼び出しに应答するときは、このハンドセットを持ち上げるか、あるいは [PTT] キーを押してください。

⑤ 端末番号ラベル

本機の端末番号をこのラベルに書いてください。

⑥ フックスイッチ

⑦ スピーカー音量調節器 [SP.VOL H/L]

内蔵スピーカーの音量レベルを調節します。

⑧ 端末番号簿

⑨ 数字キー [0] ~ [9]

ダイヤルするときに使います。

⑩ 機能キー [*]

ページング呼び出し機能あるいはその他の特殊な機能を操作するときに使います。

⑪ 機能キー [#]

特殊な機能の登録およびダイヤル操作に使います。

⑫ プレストークキー [PTT]

プレストーク通話で話すときに使います。受信した呼び出しに应答するための应答キーとして機能します。

⑬ キャンセルキー [C]

呼び出しを終了させます。

⑭ リダイヤルキー [REDIAL]

最後にダイヤルした番号を自動的に再度ダイヤルします。また、表示部に話中待機端末を順次表示する端末選択キーとしても機能します。

⑮ 転送キー [XFER]

通話を転送するのに使います。このキーを押し、次に、転送先の端末番号をダイヤルしてください。

⑯ オートダイヤルキー [1] ~ [8]

登録されている端末番号を自動的にダイヤルします。

⑰ 内蔵マイク

ハンズフリー通話で使います。

- ⑱ ハンドセットスピーカー音量調節器
[HANDSET SP.VOL]
ハンドセットの中にあるスピーカーの音量レベルを調節します。

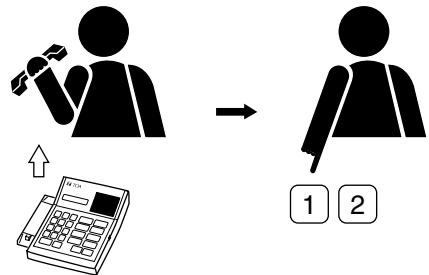
- ⑳ ラインコネクター [LINE]
交換機と接続するためのコネクターです。

- ㉑ 登録スイッチ [REGISTER ON/OFF]
オートダイヤルやその他のデータなどを端末に登録するときは、ON にします。通常の位置は OFF です。

マスターステーションの操作

■ サブステーションの呼び出しかた

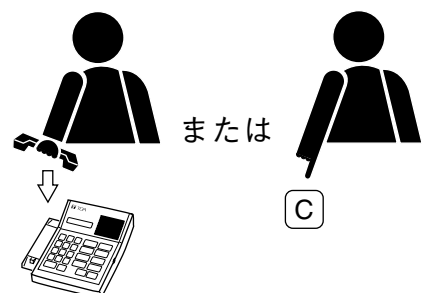
- 1** 呼び出すサブステーションの番号を押す。(マスターステーションはハンドセットを持ち上げていても、置いたままでもダイヤルできます。)



- 2** 短い呼び出し音が鳴った後、マスターステーションは自動的にサブステーションにつながります。
マスターステーション側で話している間はマスターステーションからの声がサブステーションで聞こえます。サブステーションからの声は、マスターステーション側で話すのを止めている間のみ、マスターステーション側で聞こえます。

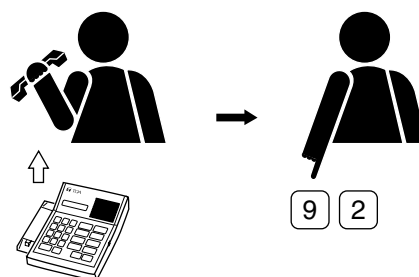


- 3** 通話を終わるときは、ハンドセットを置くか、[C]キーを押す。



■ マスターステーションの呼び出しかた

- 1** 呼び出す端末の番号を押す。(マスターステーションはハンドセットを持ち上げていても、置いたままでもダイヤルできます。)



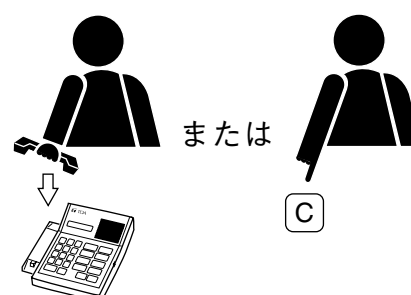
- 2** 発呼端末のハンドセットから呼び出し音が聞こえます。(呼び出し音は、ハンドセットを置いたままダイヤルした場合には、マスターステーションの内部スピーカーから聞こえます。)



- 3** 呼び出し音が止まり、呼び出された端末が応答すると通話を始めることができます。



- 4** 通話を終わるときは、ハンドセットを置くか、[C]キーを押す。



■ 呼び出されたとき

1 呼び出し音が聞こえます。



2 ハンドセットを持ち上げると呼び出し音が止まり、通話することができます。(ハンズフリー通話をするために [PTT] キーを押して応答することもできます。)

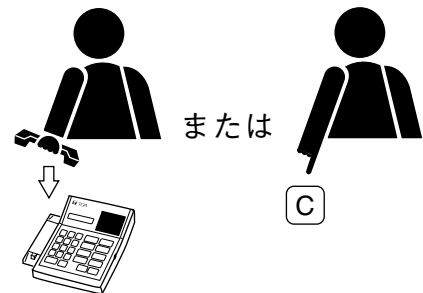
[PTT キーを使って応答する場合]

- (1) 発呼側がマスターステーションのハンドセットを持ち上げて話している場合には同時通話ができます。
- (2) 発呼側がマスターステーションのハンドセットを置いたまま話している場合には、プレストークによる交互通話ができます。

※ 次ページの「通話方式」を参照してください。



3 通話を終わるときは、ハンドセットを置くか、[C] キーを押す。

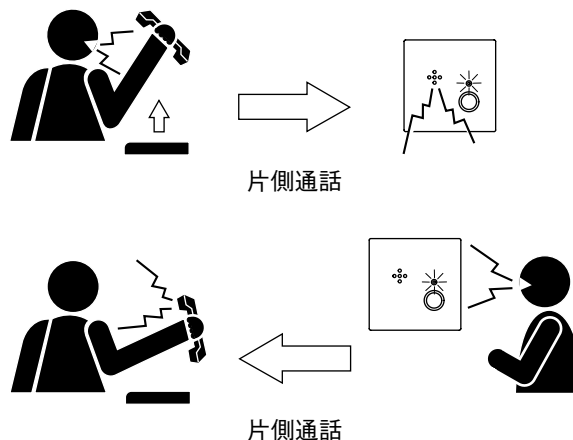


■ 通話方式

マスターステーションを使う場合、3通りの通話方式があります。この通話方法は、相手の端末の種類とハンドセットの使い方によって決定されます。

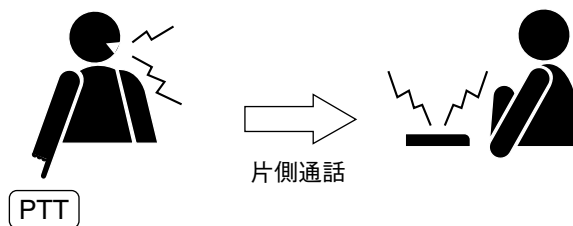
(1) 音声による切り換え通話

両方の端末が同時に話した場合、マスターステーションの音声サブステーションに送られます。マスターステーションが話すのを止めると、サブステーションの音声マスターステーションで聞こえます。



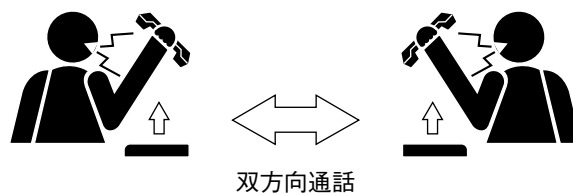
(2) プレストーク通話

〔PTT〕キーは、話すときに押し、聞くときに離します。



(3) 同時通話

普通の電話と同じ方式です。



下の表は、端末のいろいろな組み合わせに対して可能な通話方式を示しています。

〔通話方式の一覧〕

		マスターステーション	
		持ち上げる場合	置く場合
サブ ステーション	RS-150、RS-160、 RS-160、RS-180	音声切り換え／ プレストーク	プレストーク
	RS-190	同時	プレストーク
	RS-191	同時	同時
マスター ステーション	ハンドセットを持ち上げている	同時	同時
	ハンドセットを置いている	同時	プレストーク

※ サブステーション間での通話はできません。

■ 通話時間制限

通話時間を制限して、自動的に通話を終了させることができます。
制限時間になると、注意信号音が発呼側と呼び出された側の両方の端末に送られて、通話が終了します。

[システム設定]

- この機能を使うには、システムプログラミングで通話時間制限機能を使用可能にする必要があります。
- 通話の制限時間を、10～990秒の間で10秒単位で設定してください。

■ ご注意

- 緊急会議
- 局線通話
- 緊急呼び出しへの応答

に対しては、通話時間制限機能は働きません。

■ 通話の録音

録音機器を接続すると、各マスターステーションの通話を独立して録音できます。

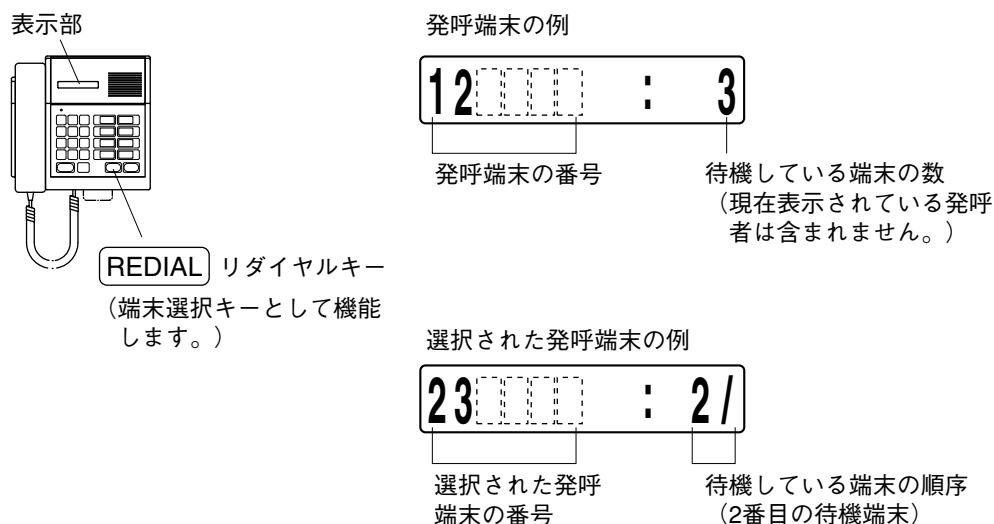
■ ご注意

マスターステーションの通話が始めると、外部制御出力がメイクされ、通話が終わるとブレイクになります。
(機器の接続と操作については、「VS-900 設置説明書」を参照してください。)

■ 発呼端末表示および選択応答

● 発呼端末表示

6桁の番号または8文字の名称を使ってマスターステーションに表示できる発呼端末は1台のみです。マスターステーションが同時に複数の端末から呼び出された場合、その中で最も優先度が高い端末が表示され、他の待機している端末は「REDIAL」キーを押すと優先順位に従って表示されます。（サブステーションの優先順位はシステムプログラミングで設定します。）



メモ

呼び出しは次の優先順序で表示されます。

1. 緊急会議呼び出し
2. 緊急用サブステーション呼び出し
3. 局線着信
4. 通常のサブステーション呼び出し
5. マスターステーションからの呼び出し

● 選択応答

マスターステーションが複数の呼び出しを同時に受信した場合、マスターステーションは応答する端末を選ぶことができます。

[操作]

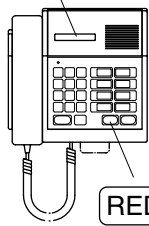
1

[REDIAL] キーを押す。

2 番目の発呼者の端末番号または名称が表示されます。

(続けて [REDIAL] キーを押すと、待機端末の番号または名称が順番に表示され、この表示が循環します。)

表示部



REDIAL リダイヤルキー
(端末選択キーとして機能します。)

発呼端末の例

12000 : 3

発呼端末番号 *1*2

待機端末の数 *3
(現在表示されている発呼者は含まれません。)

REDIAL

41000 : 1/

発呼端末番号 *1*2

1 番目の待機者 *2

REDIAL

34000 : 2/

発呼端末番号 *1*2

2 番目の待機者 *2

REDIAL

36000 : 3/

発呼端末番号 *1*2

3 番目の待機者 *2

REDIAL

*1 発呼者の名称を表示させることができます。例：ウケツケ

*2 緊急用サブステーションから呼び出しがあったときは点滅します。

*3 緊急用サブステーションが含まれているときは点滅します。

2

応答する端末の番号 (または名称) が表示されたらハンドセットを持ち上げる。

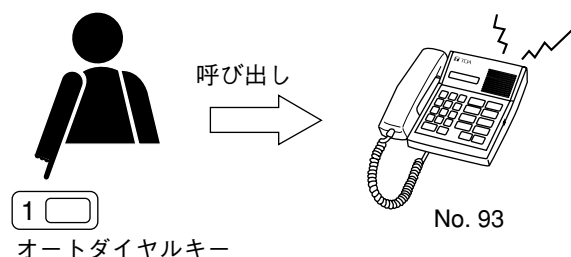
呼び出し音が止まり、通話を始めることができます。
([PTT] キー押してハンズフリー応答をすることもできます。)



■ オートダイヤル機能の使いかた

● オートダイヤルキーを使った呼び出し

オートダイヤルキーをワンタッチすると、そのキーに割り当てられている端末番号、あるいはページング、不在転送、または他の機能を起動させるための一連の機能番号を自動的にダイヤルします。8つのオートダイヤルキー [1] ～ [8] があります。



● オートダイヤルキーの登録

- 1 マスターステーションの登録スイッチを ON にする。
表示部が登録モードになります。

Reg_mode

- 2 [PTT] キーを押す。
次の文字が表示されます。

Auto dial

- 3 登録するオートダイヤルキーを押す。
選ばれたキーの番号（例： [2]）が表示されます。

2: オートダイヤルキー [2] の表示例

オートダイヤルキーにすでに端末番号あるいは機能番号が割り当てられていれば、その割り当てられてある端末番号も、オートダイヤルキー番号（例： [2]）の次に表示されます。

2:9000000 オートダイヤルキー [2] の表示例

- 4 [PTT] キーを押す。
前に割り当てられて表示されていた番号は消去されます。

2: オートダイヤルキー [2] の表示例

- 5** 数字キー [0] ～ [9]、または機能キー ([*] か [#])、または [REDIAL] キーを使って登録する新しい番号を押す。

2:123456

[1] [2] [3] [4] [5] [6] を入力した例

ご注意

- 番号をダイヤルする途中で [C] キーを押すと、それまでの内容はすべて消去されます。
- [REDIAL] キーを押すと、[-] の符号が表示されます。
- 下の表示は、ページングの機能番号を入力した場合の表示例です。

2:*80#

- 6** 登録番号を入力した後に [PTT] キーを押す。
登録が完了し、確認音が鳴ります。

2:123456

[1] [2] [3] [4] [5] [6] の登録完了を示す例

- 7** 登録スイッチを OFF の位置に戻す。
マスターステーションは待ち受け状態になります。

11:59am

● オートダイヤルキーの登録を消去する

- 1** マスターステーションの登録スイッチを ON にする。
表示部が登録モードになります。

Reg_mode

- 2** [PTT] キーを押す。
次の文字が表示されます。

Auto dial

- 3** 消去する登録済みのオートダイヤルキーを押す。
選んだキーの番号（例： [2]）が、登録されている番号と一緒に表示されます。

2:123456

[1] [2] [3] [4] [5] [6] が登録されて入ることを示す例

- 4** [PTT] キーを押す。
オートダイヤルキー [2] の後に表示されていた番号が消去されます。

2:

オートダイヤルキー [2] の表示例

- 5** [PTT] キーをもう一度押す。
消去が完了し、確認音が鳴ります。

2:

オートダイヤルキー [2] の表示例

- 6** 登録スイッチを OFF の位置に戻す。
マスターステーションは待ち受け状態になります。

11:59am

● オートダイヤルキーの登録確認

- 1** マスターステーションの登録スイッチを ON にする。
表示部が登録モードになります。

Reg_mode

- 2** [PTT] キーを押す。
次の文字が表示されます。

Auto dial

- 3** 確認したいオートダイヤルキーを押す。
選んだキーの番号（例： [2]）が、登録されている番号と一緒に表示されます。

2:123456

オートダイヤルキー [2] の登録表示例

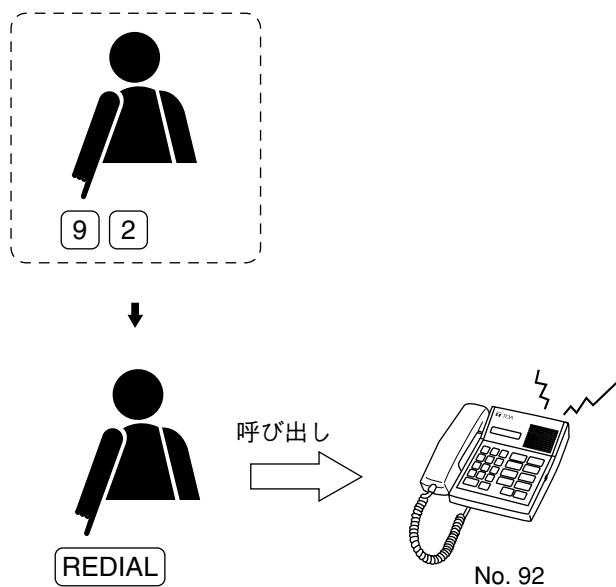
登録された番号が表示画面に納まらない場合、[#] キーを押すと次の桁数の画面に進み、[*] キーを押すと前の桁数の画面に戻ります。

- 4** 登録スイッチの位置を OFF に戻す。
マスターステーションは待ち受け状態になります。

11:59am

■ リダイヤル

[REDIAL] キーを押すと、最後にダイヤルした番号を再びダイヤルします。



第3章

便利な機能

呼び出しに関連した機能

グループ呼び出し

機能

最大16台のマスターステーションを1つのグループとして登録しておくとし、サブステーションからマスターステーションを呼び出したとき、グループ内のどのマスターステーションからでも応答できます。

[システム設定]

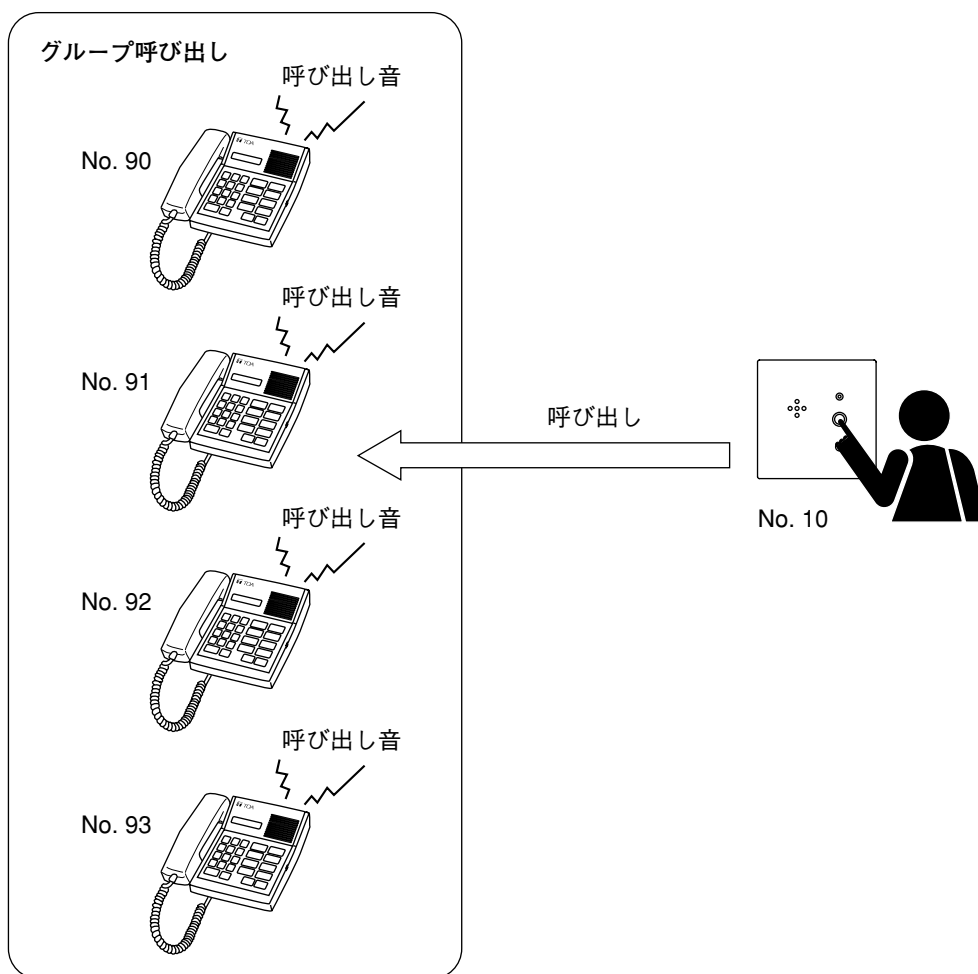
最初に、グループ内の1台のマスターステーションを代表端末に設定し、残りをメンバー端末に設定します。次に、サブステーションが呼び出す代表端末を設定します。

グループ呼び出しの操作

1

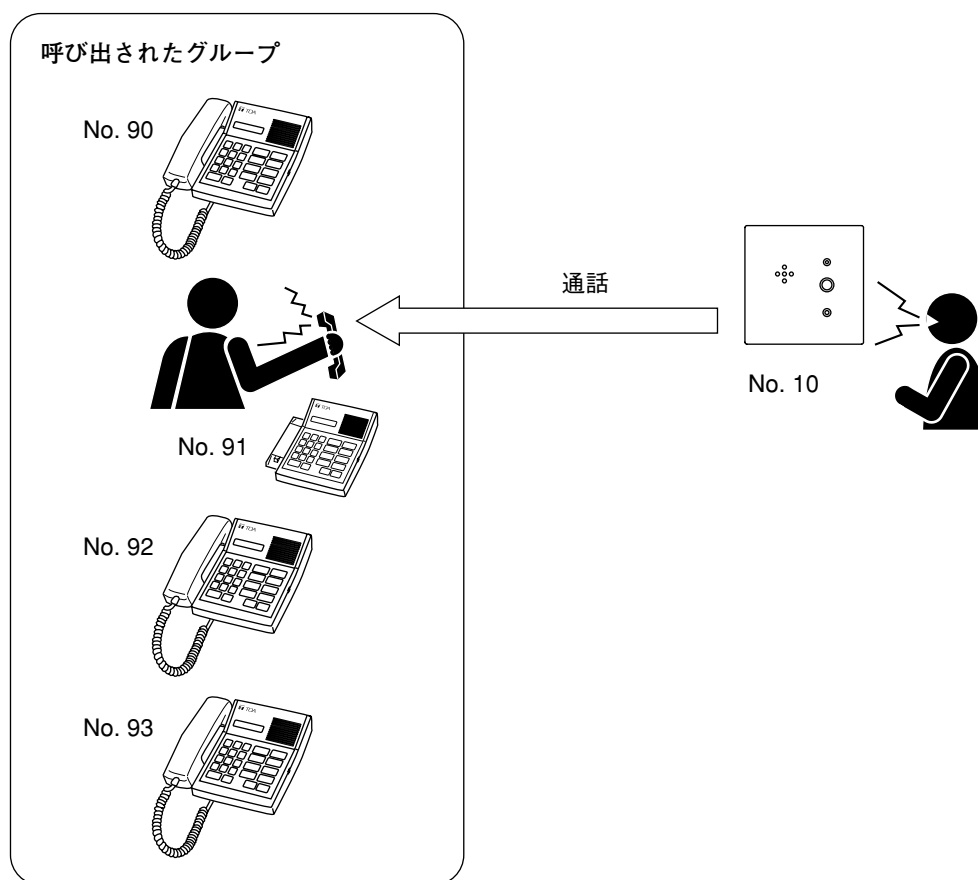
サブステーションの呼び出しボタンを押す。

あらかじめ設定されたグループ内のすべてのマスターステーションで、呼び出し音が一斉に鳴ります。



2 呼び出し音が鳴っているマスターステーションの中の1台のハンドセットを持ち上げるか、あるいは[PTT]キーを押す。

他のマスターステーションの呼び出し音がすべて止まります。



ご注意

呼び出されたマスターステーションは、サブステーションから個々に呼び出されたときと同じ方法でグループ呼び出しに応答できます。(「第2章 マスターステーションの基本操作」を参照してください。)

[機能の詳細と制限]

サブステーション*からマスターステーション（グループ呼び出しの代表端末）に呼び出しがかかったという想定で、以下の説明を行います。

- (1) 緊急用サブステーションからの呼び出しも、通常のサブステーションからの呼び出しと同様に、グループ呼び出しとなります。
- (2) グループ呼び出しの代表端末が不在転送に設定されているときには、その呼び出しは設定された転送先の端末に転送され、グループの他の端末（メンバー端末）を呼び出しません。さらに、転送先の端末（マスターステーション）がグループ呼び出しの代表端末に登録されていれば、そのグループ内のすべての端末で呼び出し音が鳴ります。
- (3) グループ呼び出しの代表端末やメンバー端末が話中転送あるいは不応答転送に設定されていても、転送されず、グループ呼び出しになります。

* マスターステーションからマスターステーション（グループ呼び出しの代表端末）を呼び出しても、グループ呼び出しにはなりません。

転送に関連した機能

転 送

機 能

(1) 転送

マスターステーションから、通話相手を他のマスターステーションに転送できます。

(2) コールホールドおよびコールバック

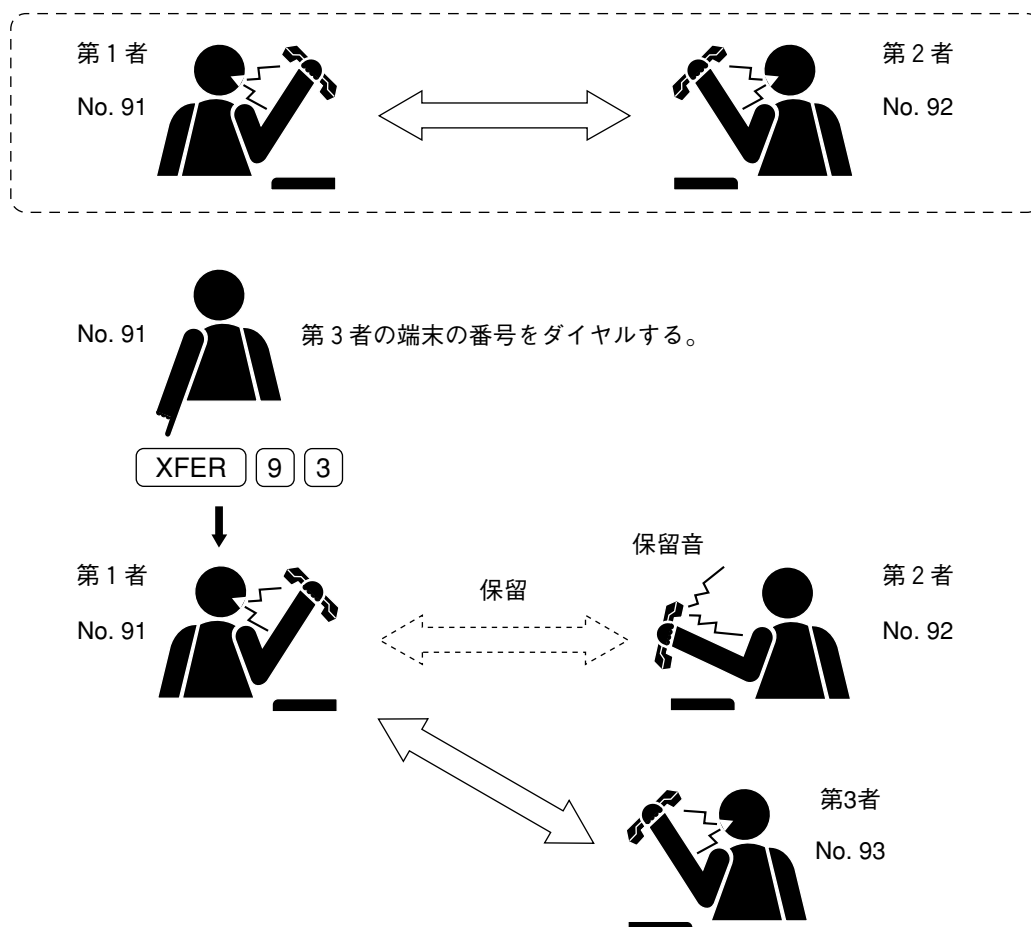
マスターステーションでは、現在の通話を一時的に保留（コールホールド）し、第3者と打ち合わせた後に元の通話に戻る（コールバック）ができます。

■ 転送の操作

[コールホールド]

1 2者間で通話をしている間に、[XFER] キーを押す。
現在の通話が保留され、保留音が相手に送られます。

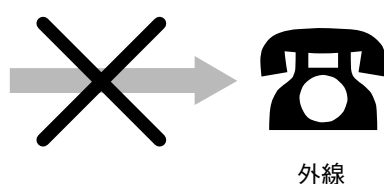
2 第3者の端末番号をダイヤルする。(例：[9][3])
第3者が応答すると、発呼者は、元の通話を保留したまま第3者と話すことができます。(コールホールドモード)



第3者との通話が終わった後、発呼者は、その通話を転送するか、または元の通話に戻ります（コールバック）。

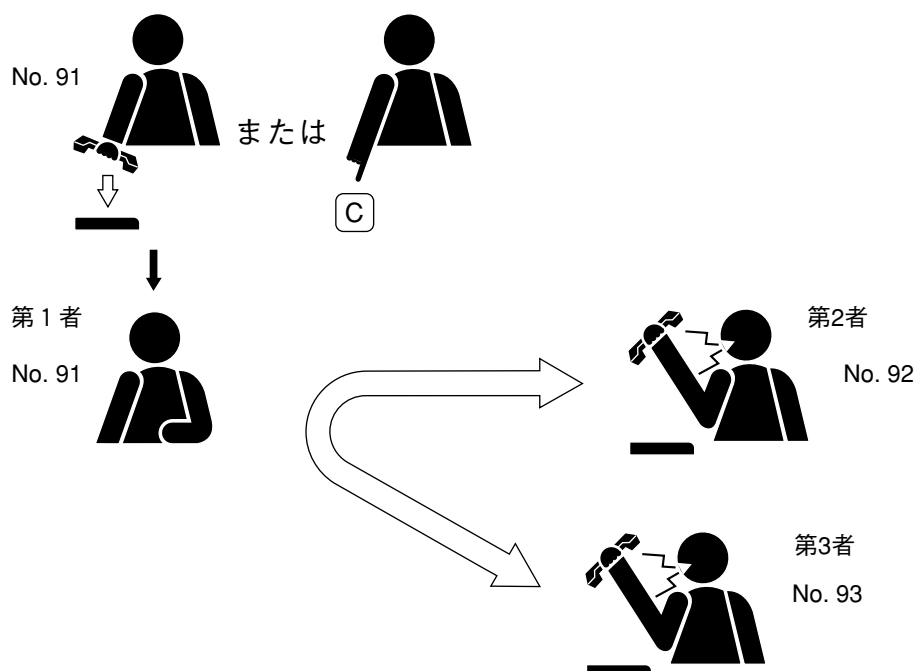
ご注意

局線へ通話を転送することはできません。(コールホールド機能は使えません。)



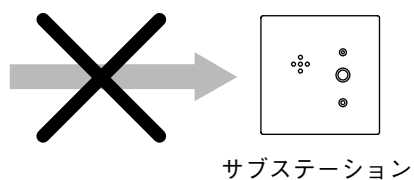
[第3者への転送]

- 3** 保留されている相手に第3者をつなぐには、ハンドセットを置くか、[C] キーを押す。
第2者と第3者との間で通話が開始されます。



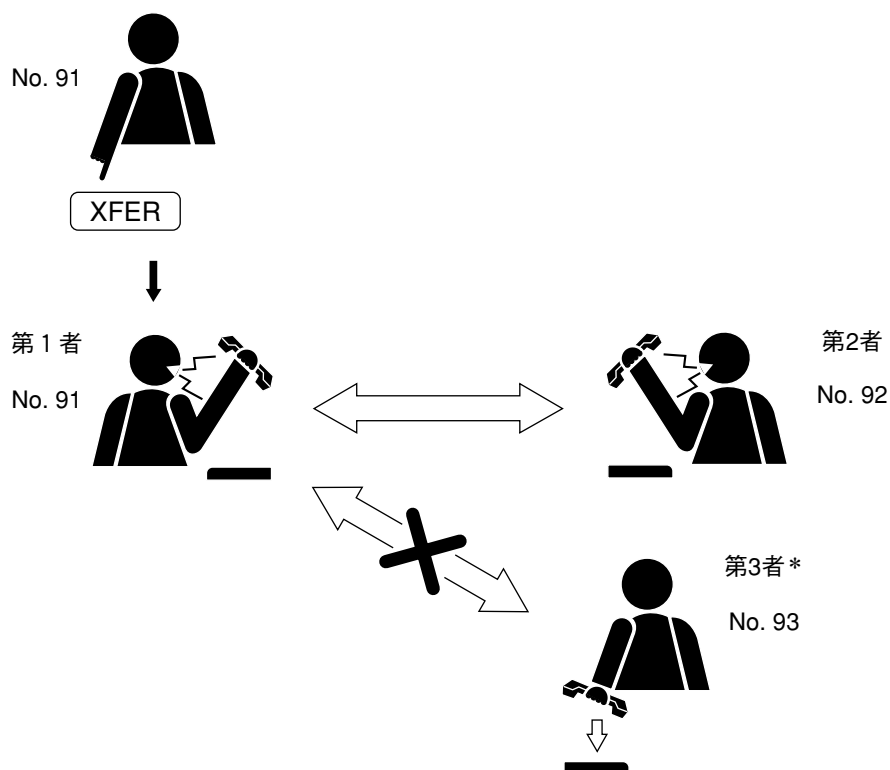
ご注意

サブステーションへ通話を転送することはできません。(コールホールド機能は使えます。)



[元の通話の復旧（コールバック）]

- 3** 転送せずに元の通話に戻るには、もう一度 [XFER] キーを押す*。
元の2者間通話に戻ります。



* 第3者がハンドセットを下ろす、または [C] キーを押すと、元の通話に戻ります。

ご注意

第1者は、ハンドセットを下ろしたり、[C] キーを押したりしないでください。通話が終了してしまいます。

自動転送に関連した機能

不在転送

機能

自分の机から離れているとき、かかってきた呼び出しを自動的に別の転送先端末に転送することができます。この転送先端末*の番号は、自分に割り当てられている端末（転送元端末）で登録できますが、転送先端末からも登録できます。（次ページ「不在転送の操作」の図をご覧ください。）

* 転送元端末と転送先端末の両方とも、マスターステーションでなければなりません。

[システム設定]

この機能を使うには、システムプログラミングで不在転送機能を使用可能にする必要があります。

登録のしかた

● 自席の端末（転送元）からの登録および消去

(1) 自席の端末からの登録

[*] [6] [0] を押し、次に転送先端末の番号（例： [9] [3]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴り、登録が完了します。同時に、登録された転送先端末の番号*が表示され、端末は待ち受け状態に戻ります。

表示部

FWD:93

不在転送モードの表示

* 端末の名称が登録されている場合は、名称が表示されます。

FWD:カイギツA

(2) 自席の端末からの登録の消去

[*] [6] [0] を押し、次に自席の端末番号（例： [9] [2]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴り、消去が完了します。現在の時刻が表示され、端末は待ち受け状態に戻ります。

11:59am

● 転送先端末からの登録および消去

(1) 転送先端末からの登録

[*] [6] [1] を押し、次に自席の端末番号（例：[9] [2]）を押してから [#] を押します。

- 確認音が鳴り、登録が完了します。転送先端末は待ち受け状態に戻ります。
- 転送先端末番号*が転送元の端末上に表示されます。

自席の端末上に表示

FWD:93

不在転送モードの表示

* 端末の名称が登録されている場合は、名称が表示されます。

FWD:カイギツA

(2) 転送先端末からの登録の消去

[*] [6] [2] を押し、次に自席の端末番号（例：[9] [2]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴って消去が完了し、転送先端末は待ち受け状態に戻ります。転送元端末上に表示されていた不在転送モードの表示が現在の時刻に変わります。

自席の端末の表示部

FWD:93

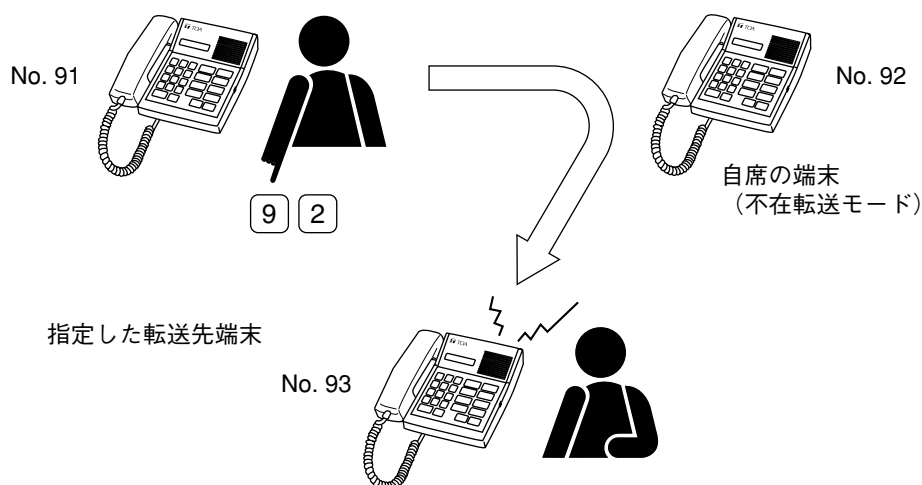


11:59am

■ 不在転送の操作

[不在転送に設定されている場合]

不在転送に設定した自席の端末にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、指定した端末に自動的に転送されます。



ご注意

- 転送先端末からは、不在転送機能により転送されることなく、自席の端末を直接呼び出すことができます。
- 転送先端末が不在転送に設定されていても、その転送先端末からはそれ以上転送されません。

時刻連動不在転送

機能

自席の端末*（転送元端末）に来るすべての呼び出しを、一日の特定時間帯に、指定した端末*（転送先端末）に自動的に転送することができます。

* 転送元端末と転送先端末の両方とも、マスターステーションでなければなりません。

[システム設定]

- (1) この機能を使うには、システムプログラミングで、時刻連動不在転送機能を使用可能に設定する必要があります。
- (2) 転送する時間帯（開始時間と終了時間）は、システムプログラミングで登録できます。（同一の交換機上で、端末ごとに異なる時間帯を設定できません。）

登録および消去

この機能を登録または消去するときは、自席の端末（転送元端末）を使用してください。

● 登録

[*] [6] [3] を押し、次に転送先端末の番号（例：[9] [3]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴り、登録が完了します。

[現在の時刻が転送時間帯に含まれている場合]

登録された転送先端末番号*が自席の端末上に表示され、自席の端末が時刻連動不在転送モードにあることを示します。

表示部

FWD:93

* 端末の名称が登録されている場合は、名称が表示されます。

FWD:カイギツA

[現在の時刻が転送時間帯に含まれていない場合]

現在の時刻が表示され、端末は待ち受け状態に戻ります。

11:59am

● 消去

[*] [6] [3] を押し、次に自席の端末番号（例：[9] [2]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴り、消去が完了します。表示部に現在の時刻が表示され、端末は待ち受け状態に戻ります。

11:59am

■ 時刻連動不在転送の操作

[時刻連動不在転送が設定されているとき]

- 1 あらかじめ設定された転送開始時間になると、端末の表示部に次のように表示され、端末*（例：93）が時刻連動不在転送状態に入ったことを示します。

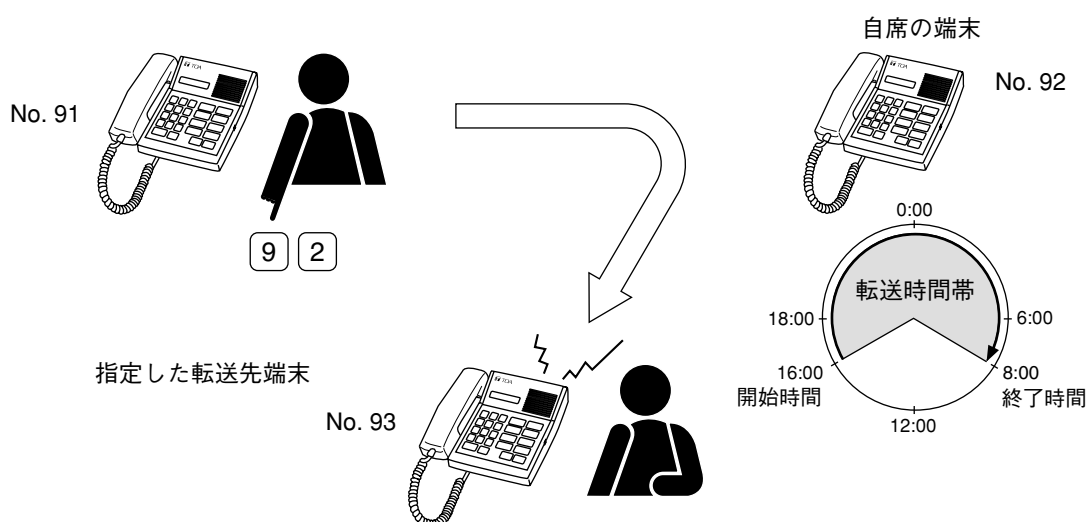
表示部

FWD:93

* 端末の名称が登録されている場合は、名称が表示されます。

FWD:カイギツA

- 2 自席の端末（転送元端末）にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送先端末に転送されます。



- 3** 転送時間帯の終了時間が来ると、時刻連動不在転送の表示が消え、現在時刻が表示されて端末は待ち受け状態に戻ります。

11:59am

ご注意

- 転送先端末からは自席の端末を直接呼び出すことができます。
- 転送先端末に不在転送に設定されていても、その転送先端末からはそれ以上転送されません。

不応答転送

機能

自席の端末*（転送元端末）にかかってきた呼び出しを、あらかじめ設定した特定の時間内に応答がなければ、指定した転送先端末*に自動的に転送します。（次ページ「不応答転送の操作」の図を参照してください。）

* 転送元端末と転送先端末の両方とも、マスターステーションでなければなりません。

[システム設定]

- (1) この機能を使うには、システムプログラミングで、不応答転送機能を使用可能にする必要があります。
- (2) 不応答とみなす時間を、システムプログラミングで1～99秒の間（1秒単位）に設定してください。（同一の交換機上で、端末ごとに異なる時間帯を設定できません。）

登録および消去

この機能を登録または消去するには、自席の端末（転送元端末）を使用してください。

● 登録

[*] [6] [4] を押し、次に転送先端末の番号（例：[9] [3]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴り、登録が完了します。現在時刻が表示され、端末は待ち受け状態になります。

● 消去

[*] [6] [4] を押し、次に自席の端末番号（例：[9] [2]）を押してから [#] を押します。

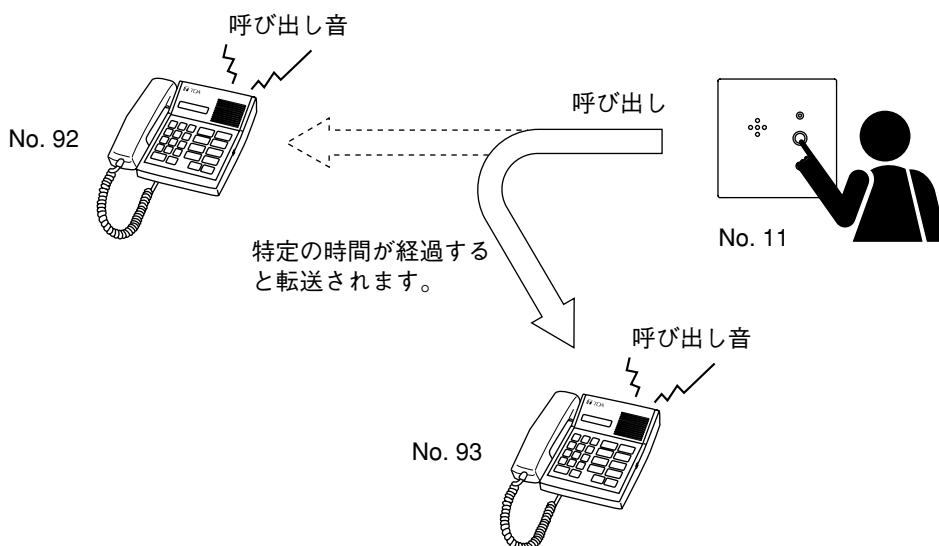
確認音が鳴り、消去が完了します。現在時刻が表示され、端末は待ち受け状態になります。

11:59am

■ 不応答転送の操作

[不応答転送に設定されているとき]

- 端末に現在の時刻が表示されます。
- 自席の端末（転送元端末）にかかってきた呼び出しは、特定の時間内に応答しなければ、転送先端末に自動的に転送されます。呼び出しが転送されるまでに他の呼び出しを受けた場合、最初の呼び出しが転送されると同時に、その間の呼び出しすべてが転送されます。



ご注意

- 転送先端末からの呼び出しは転送されません。
- 転送先端末も不応答転送に設定されているときは、呼び出しはさらに次の端末に転送されます。
- 転送先端末が通話中のときは、転送されません。
- 転送先端末が不在転送に設定されているときには、転送されません。
- 不応答転送に設定されている端末がグループ呼び出しの代表端末の場合、サブステーションからの呼び出しはグループ呼び出しされ、転送されません。(グループ呼び出しが優先されます。)

話中転送

■ 機 能

通話中の端末*にかかってきた呼び出しを、指定した端末*に転送します。

* 転送する端末（転送元端末）と、呼び出しが転送される端末（転送先端末）の両方ともマスターステーションでなければなりません。

[システム設定]

この機能を使うには、システムプログラミングで、話中転送機能を使用可能にする必要があります。

■ 登録および消去

この機能を登録または消去するには、自席の端末（転送元端末）を使用してください。

● 登録

[*] [6] [5] を押し、次に転送先端末の番号（例： [9] [3]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴り、登録が完了します。現在時刻が表示され、端末は待ち受け状態になります。

11:59am

● 消去

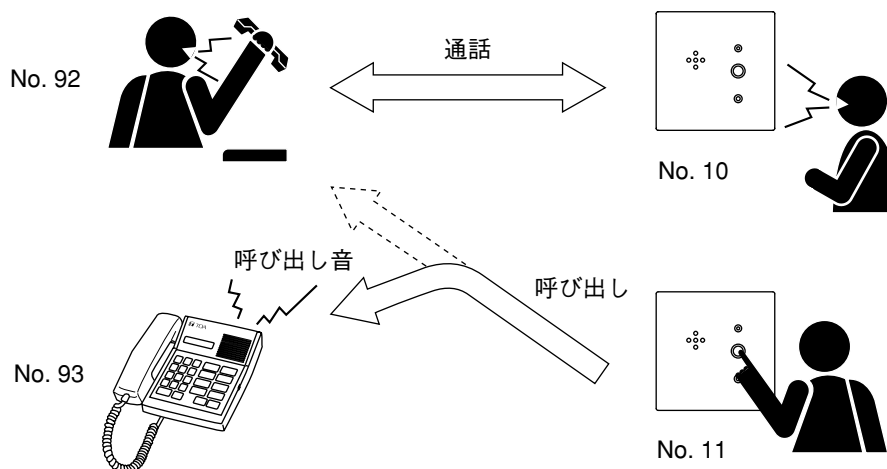
[*] [6] [5] を押し、次に自席の端末番号（例： [9] [3]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴り、消去が完了します。現在時刻が表示され、端末は待ち受け状態になります。

11:59am

■ 話中転送の操作

通話中の端末（例：92）にかかってきた呼び出しは、別の指定した端末（例：93）に転送されます。



ご注意

- 転送先端末（例：93）も通話中のときは転送されません。（端末93が話中転送に設定されていても、さらに転送されることはありません。）自席の端末（例：92）または転送先の端末（例：93）のどちらか先に空いた方につながります。
- 転送先端末（例：93）からは、話中転送機能により転送されることなく、直接自席の端末（例：92）を呼ぶことができます。
- 転送先端末が不在転送に設定されているときには転送されません。
- 話中転送に設定されている端末がグループ呼び出しの代表端末の場合、サブステーションからの呼び出しはグループ呼び出しされ、転送されません。（グループ呼び出しが優先されます。）

モニター（監視）に関連した機能

スキャンモニター

■ 機 能

任意のマスターステーションから、指定したサブステーショングループを音声モニターできます。
(次ページの図をご覧ください。)

[システム設定]

- (1) この機能を使うには、システムプログラミングで、モニターするサブステーション（16台まで）をマスターステーションごとに設定する必要があります。
- (2) システムプログラミングで、マスターステーションがモニターする時間間隔を1～99秒の間（1秒単位）で設定できます。

■ スキャンモニターの操作

1 自動スキャン

マスターステーションで[*][2]を押す。

- スキャンモニターが始まり、手動で止めるまで、設定した順序と設定した時間間隔で自動的にサブステーショングループ内を循環してモニターします。
- モニターされているサブステーションの番号か名称がマスターステーション上に表示されます。
- ハンドセットを使ってもモニターできます。

2 手動スキャン

2-1 自動スキャンの停止および再始動

特定のサブステーションを連続してモニターするには、そのサブステーションのところで、[0]キーを押して自動スキャンの動作を止めてください。

2-2 スキャンを進める

[#]キーを押すと、サブステーションのモニターを1台進めます。

2-3 スキャンを戻す

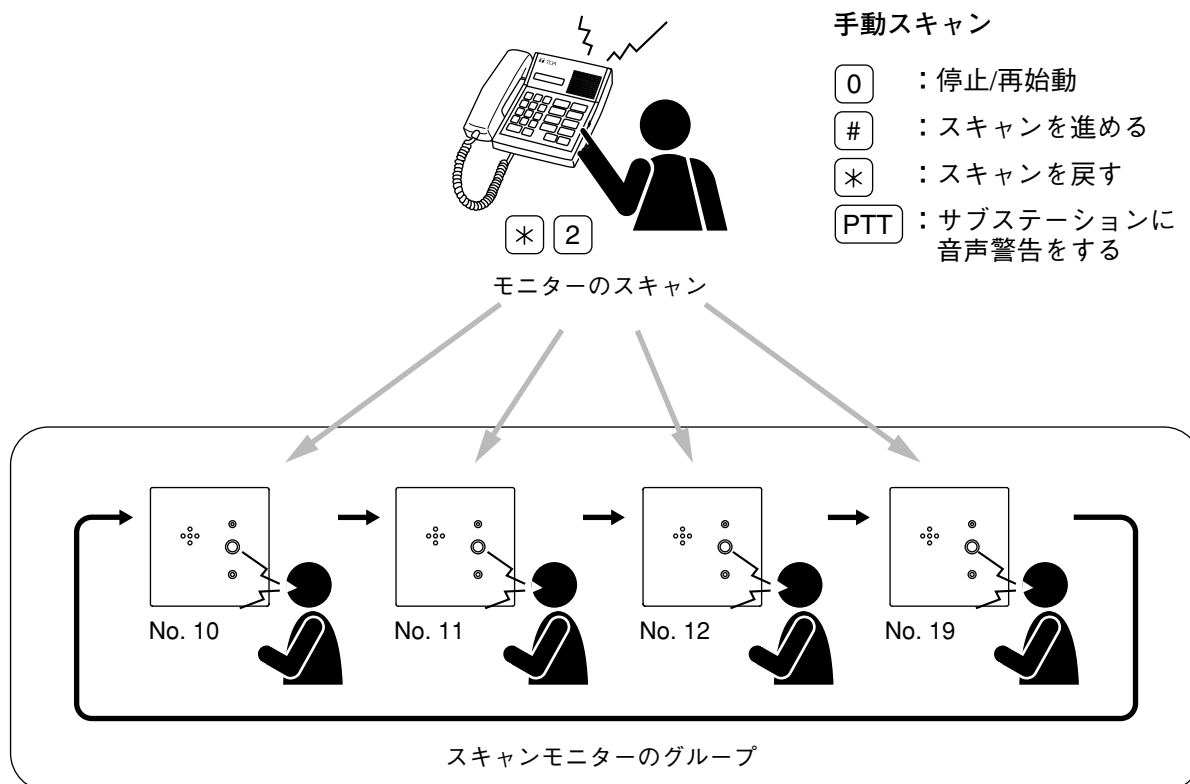
[*]キーを押すと、サブステーションのモニターを1台戻します。

2-4 サブステーションに音声警告をする

サブステーションに音声警告をするには、[PTT]キーを押してください。

3 スキャンモニターの終了

スキャンモニターを終了させるには、[C]キーを押すか、マスターステーションのハンドセットを置いてください。



[スキャンモニターの操作の詳細]

- (1) マスターステーションの [PTT] キーを押さなければ、モニターされているサブステーションにマスターステーションから音声は送られません。
- (2) モニターするサブステーションが通話中のときは、マスターステーションには話中音が聞こえ、話中の表示がされます。
- (3) サブステーションをスキャンモニター中にマスターステーションに呼び出しがかかると、マスターステーションの表示部に発呼者が表示されます。応答するには、[C] キーを押すかハンドセットを置いてスキャンモニターを終了してください。

ページング関係の機能

この機能を使うと、マスターステーションから複数のサブステーション*¹または外部の拡声機器へ放送できます。VS-900 システムでは、次の4つのページング方法があります。

- (1) 個別ゾーンへのゾーンページング放送*²
- (2) 全ゾーン一斉ページング放送*²
- (3) すべての端末および外部の拡声機器への緊急一斉ページング放送*³
- (4) 個別ゾーンへの外部音源放送*²

*¹ 緊急一斉ページングのみ、マスターステーションにも放送できます。

*² 緊急用サブステーションはどのゾーンにも割り当てることができないので、この端末は除きます。

*³ 緊急用サブステーションを含みます。

ゾーンページング

機能

複数のサブステーションを外部拡声装置と組み合わせて作った最大19の個別ゾーン（01～19）に対してページング放送ができます。2つ以上のゾーンを同時に選べます。

[システム設定]

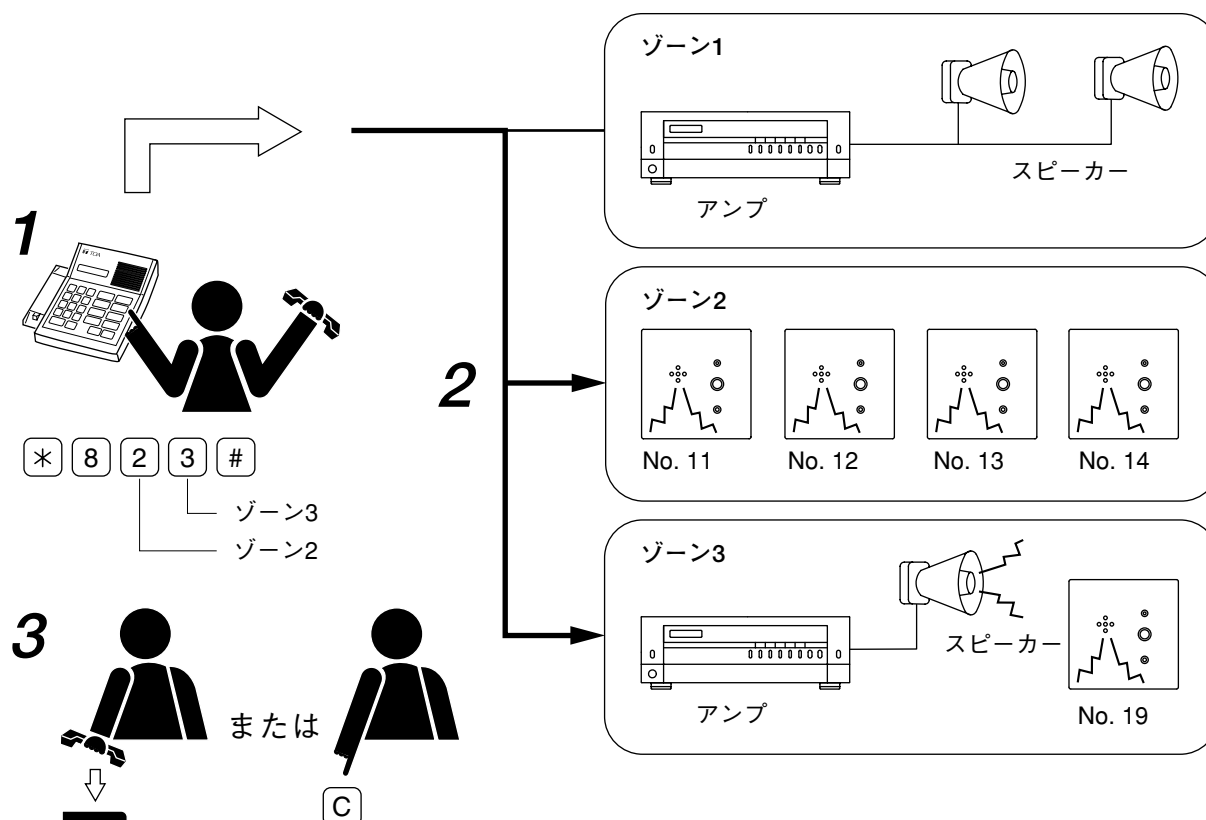
- (1) ゾーン番号の桁数（1桁か2桁）はシステムプログラミングで登録できます。
 - 1桁：ゾーン番号1～9
 - 2桁：ゾーン番号01～19
- (2) サブステーション番号および各ゾーンに含まれる外部拡声機器の選択出力は、システムプログラミングで登録できます。1つのゾーン当たり、1,024台までのサブステーションと、16までの選択出力を登録できます。

ご注意

外部機器に対するページングには、1つの音声出力しか利用できません。複数の人が同時にページングすることはできません。

ゾーンページングのダイヤル操作

- 1** [*] [8] を押し、次に放送するゾーン番号（例：[2] [3]）を押してから [#] を押す。
9つ（19）までのゾーンを同時に選べます。
- 2** ページング呼び出し音が、選択されたゾーンに流れます。
ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げてもページングができます。
- 3** ページングを終了させるときは、ハンドセットを置くか、あるいは [C] キーを押す。



[ページングの優先順位]

次のいずれかのページングまたは放送が行われると、現在放送されているゾーンページングは終了します。

1. 緊急一斉ページング
2. 緊急会議
3. 外部音源の放送
4. 一斉ページング

【ご注意】

緊急一斉ページング、緊急会議あるいは現在放送されているページングよりも高い優先度を持つ外部音源放送があると、放送中のページングは強制終了されることがあります。

一斉ページング

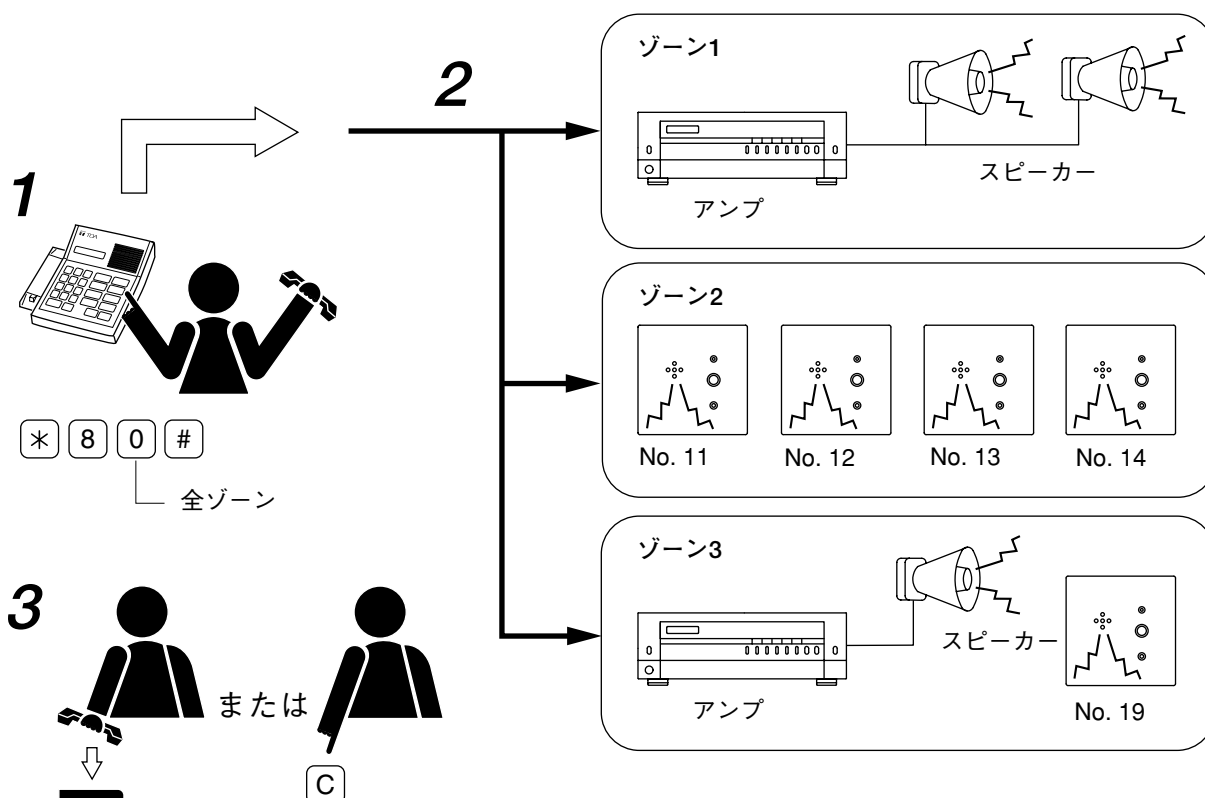
設定されているすべてのゾーンにあるサブステーションと外部拡声機器にページングすることができます。（ゾーンに割り当てられていないサブステーションと外部拡声機器にはページングされません。）

[システム設定]

- (1) 一斉ページングをするための特番（[0] か [0] [0]）の桁数（1桁か2桁）は、システムプログラミングで登録できます。
- (2) サブステーション番号および各ゾーンに含まれる外部拡声機器の選択出力は、システムプログラミングで登録できます。

■ 一斉ページングのダイヤル操作

- 1 **1** [*] [8] を押し、次に一斉ページングの特番 ([0] か [00]) を押してから [#] を押す。
[*] [8] [0] [#] : 1桁の特番を選んだ場合
[*] [8] [0] [0] [#] : 2桁の特番を選んだ場合
- 2 **2** ページング呼び出し音が、すべてのゾーンに流れます。
ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げてもページングができます。
- 3 **3** ページングを終了させるときは、ハンドセットを置くか、あるいは [C] キーを押す。



[ページングの優先順位]

次のいずれかのページングまたは放送が行われると、現在放送されている一斉ページングは終了します。

1. 緊急一斉ページング
2. 緊急会議
3. 外部音源放送

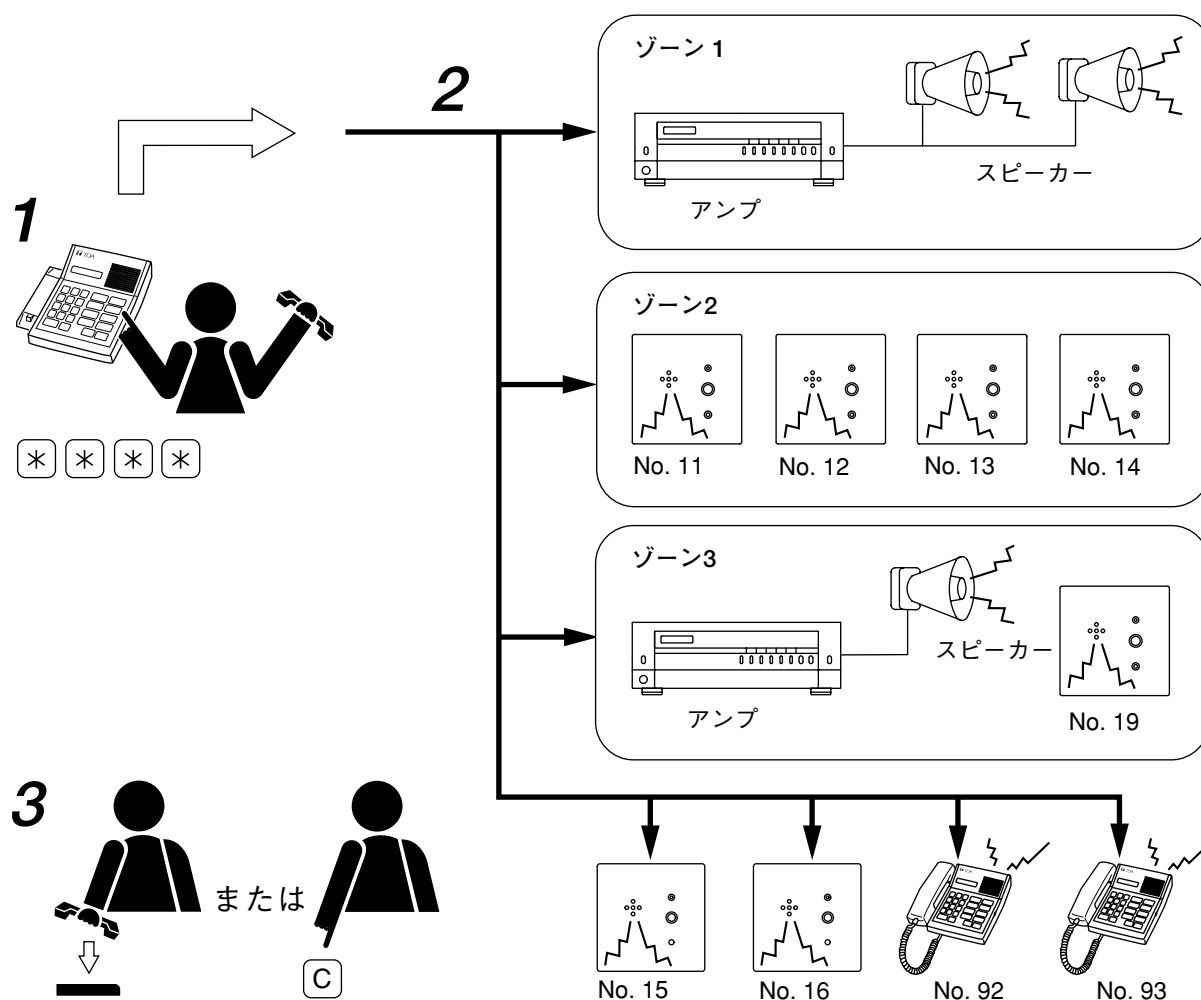
緊急一斉ページング

■ 機 能

すべての接続されているマスターステーション、サブステーションおよび外部拡声機器に対して同時にページングできます。

■ 緊急一斉ページングのダイヤル操作

- 1 マスターステーションから [*] [*] [*] [*] をダイヤルする。
- 2 すべてのサブステーション、マスターステーションおよび外部の拡声機器にページング呼び出し音が送られます。
ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げてページングができます。
- 3 ページングを終了させるには、ハンドセットを置くか、あるいは [C] キーを押す。



[ページングの優先順位]

緊急一斉ページングを放送すると、すべての現在の通話と放送は終了し、その通話や放送は、緊急一斉ページングが終わっても元の状態に戻りません。

外部音源の放送

機 能

入力を起動させて、外部音源をあらかじめ登録したページングゾーンに放送できます。

複数のサブステーションと外部の拡声装置機器を組み合わせ設定した19カ所までの個別ゾーンに放送できます。

複数の個別ゾーンに同時に放送できます。

[システム設定]

各起動入力（4入力まで）に対し、最大9つ（19）までのページングゾーンを、システムプログラミングで登録できます。

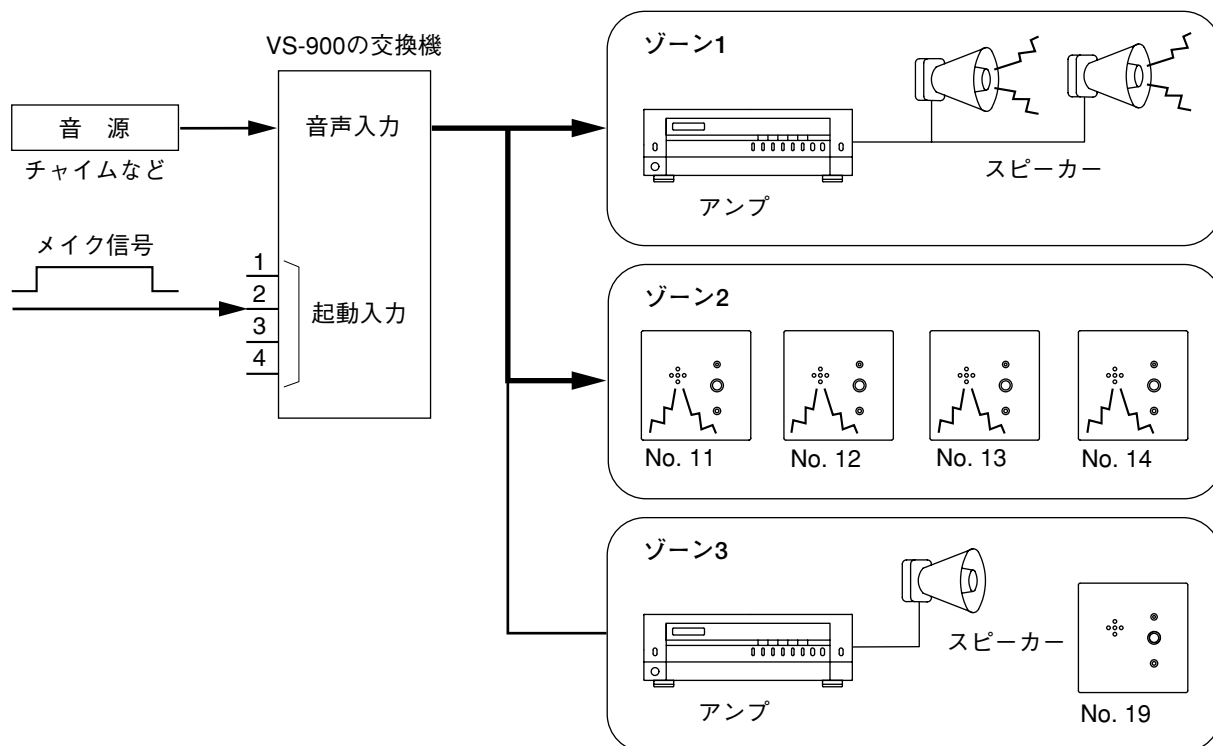
外部音源放送の操作

- (1) 起動入力をメイクすると、外部機器からの放送があらかじめ登録されたページングゾーンに流れます。起動入力がブレイクすると、放送は終了します。

ご注意

複数の起動入力を同時に使うことはできません。

- (2) VS-900の交換機には、起動入力が4つあり、音声入力が1つあります。



[優先度]

起動入力がメイクを受け付けると、その立ち上がり区間で外部音源が動作します。動作中は、他のすべての入力メイクを受け付けません。

ページング時間制限

機能

ページングがあらかじめ設定している時間制限を超えると、そのページングを自動的に終わらせることができます。（この機能は、使用者がページング終了後に機器のスイッチを切るのを忘れ、そのまま回線が占拠されるのを防ぐのが目的です。）

緊急一斉ページングに対しては、ページング時間制限機能は働きません。

[システム設定]

- この機能を使うには、システムプログラミングでページング時間制限機能を使用可能にする必要があります。
- 個別ゾーンページングと一斉ページングの両機能に共通のページング時間制限（10～990秒、10秒単位）をシステムプログラミングで登録できます。

ページングリダイヤル

機能

簡単なキー操作で、最後にページング放送をしたゾーンを再びダイヤルして呼び出すことができます。

ページングリダイヤルの操作

- 1** マスターステーションで[*][8][#]とダイヤルする。
- 2** 一斉ページングを含む最後にページングを放送したゾーンにページング呼び出し音が流れます。
ハンドセットを置いたままあるいは持ち上げてもページングができます。
- 3** ページング放送を終了させるには、ハンドセットを置くか[C]キーを押す。

ご注意

ページングリダイヤル機能は、緊急一斉ページングには使えません。

局線に関連した機能

VS-900 システムに局線を接続し、マスターステーションから局線を呼び出したり、局線から着信を受けたりできます。

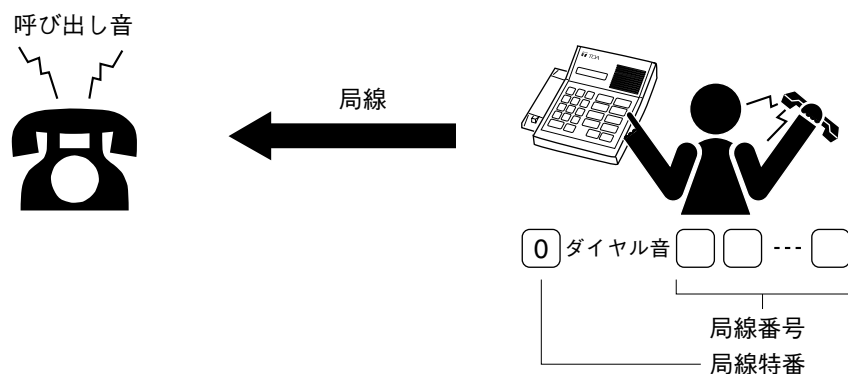
局線発信

[システム設定]

最初に、1桁（[0] ～ [9]）の局線発信特番（局線特番）を登録する必要があります。

■ 発信ダイヤル操作

- 1** 登録されている局線特番（例：[0]）を押す。
ダイヤル音が聞こえます。
- 2** 電話番号をダイヤルする。
- 3** 相手が出たら、通話を始める。
- 4** 通話が終われば、ハンドセットを置くか [C] キーを押す。



局線着信（ダイレクトインライン）

■ダイレクトインラインの機能

局線がかかってきたときに、登録した代表端末*と、3台までのメンバー端末*で呼び出し音が鳴ります。

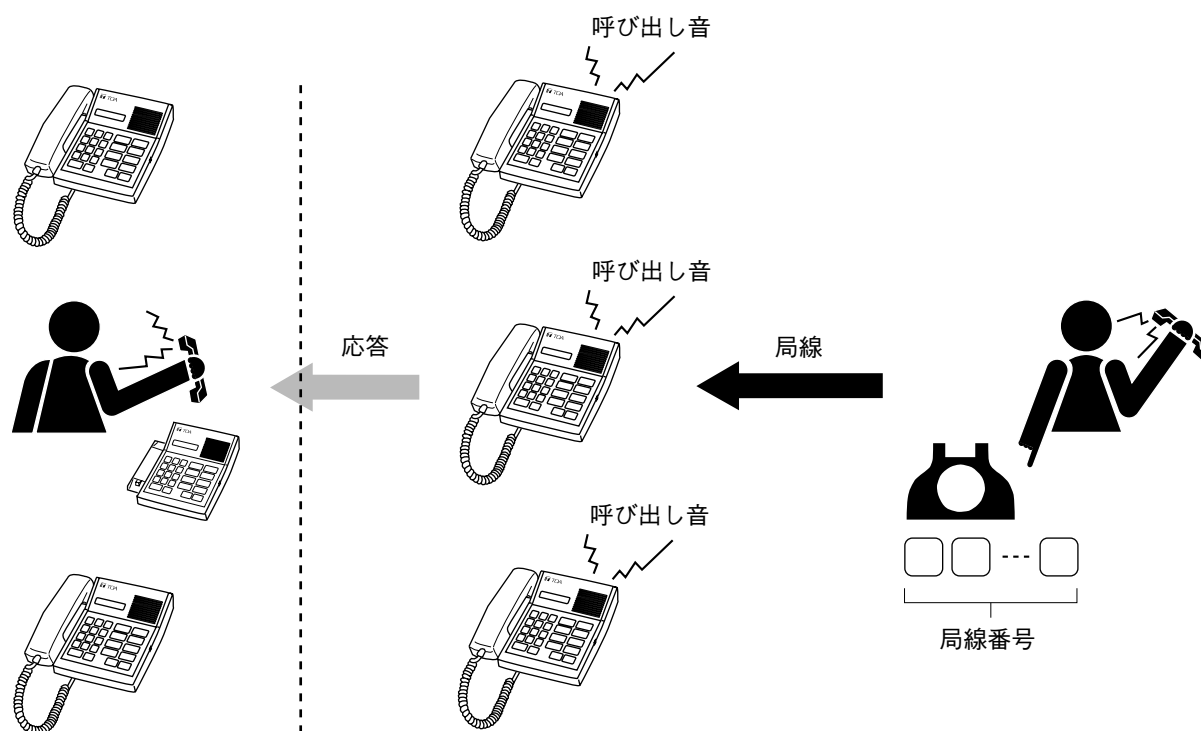
[システム設定]

局線呼び出しを受信するには、1台の代表端末と3台までのメンバー端末をシステムプログラミングで登録する必要があります。

* 代表とメンバーの両方の端末は、マスターステーションでなければなりません。

■ダイレクトインラインの操作

- 1 4台までの端末で呼び出し音が鳴ります。
- 2 そのうちの1台の端末がハンドセットを持ち上げるか、あるいは [PTT] キーを押す。
他の端末で鳴っている呼び出し音が止まり、通話が始まります。



局線着信（ダイレクトインダイヤル）

■ダイレクトインダイヤルの機能

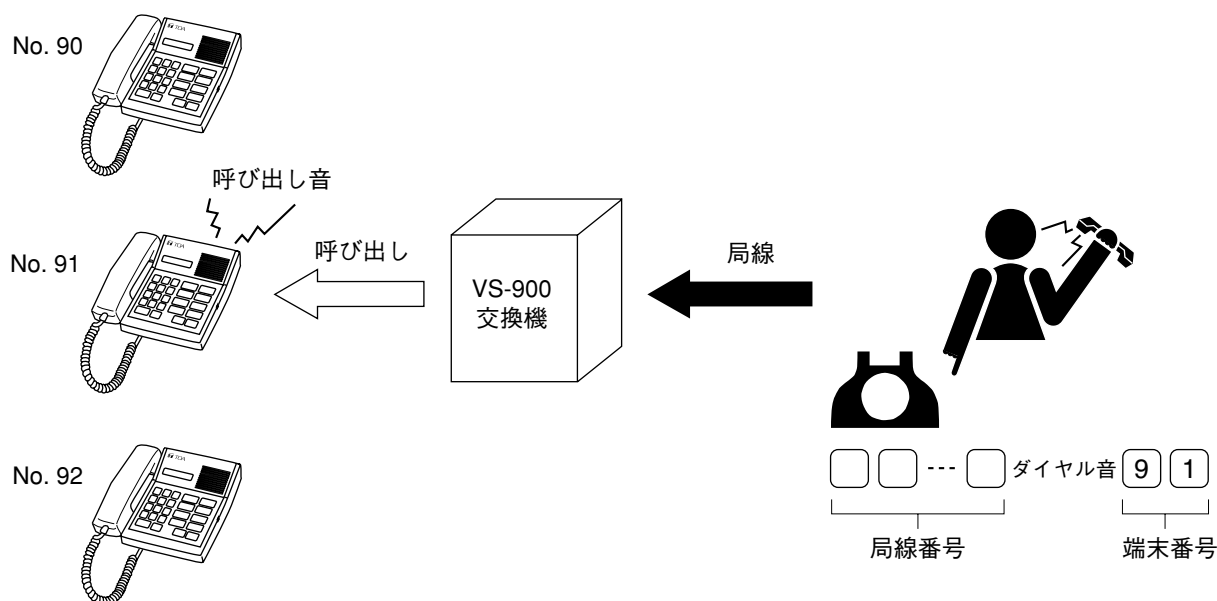
局線発呼者は、直接通話したい相手の番号をダイヤルすれば、そのマスターステーションあるいはサブステーションにつながります。

[システム設定]

この機能を使うには、システムプログラミングでダイレクトインダイヤル機能を使用可能にする必要があります。

■ダイレクトインダイヤルの操作

- 1** VS-900 システムの交換機が局線からの呼び出しを受けると、自動的に応答し、発呼者にダイヤル音を送ります。
- 2** 発呼者は、ダイヤル音を聞いてから、相手の端末番号をダイヤルする。
相手につながります。



[操作の詳細]

- (1) 発呼者がダイヤル音を聞いてから 10 秒以内に相手の端末番号をダイヤルしなければ、登録されているダイレクトインラインの端末が呼び出されます。(前ページ「ダイレクトインラインの操作」の図をご覧ください。)

局線接続時間制限

局線の接続時間を制限して、自動的に通話を終了させることができます。
制限時間になると、注意信号音が発呼側と呼び出された側の両方の端末に送られて、通話が終了します。

[システム設定]

- (1) この機能を使うには、システムプログラミングで局線接続時間制限機能を使用可能にする必要があります。
- (2) 接続時間制限を、1～99分の間で1分単位で設定してください。

局線通話の録音

- 録音機器を接続すると、局線の通話を独立して録音できます。
- 局線が接続されると外部制御出力がメイクされ、通話が終わるとブレイクになります。(機器の接続については、「VS-900 設置説明書」を参照してください。)

局線への不在転送

機能

局線特番を自席のマスターステーションで登録しておくとし、すべての呼び出しを、指定した転送先局線に自動的に転送できます。（次ページ「局線への不在転送の操作」の図をご覧ください。）

〔システム設定〕

- (1) この機能を使うには、システムプログラミングで不在転送機能を、使用可能にする必要があります。
- (2) 各マスターステーションに対して、転送先の電話番号を、システムプログラミングで個々に登録できます。

登録および消去

この機能を登録または消去するには、自席の端末（転送元端末）を使用してください。

● 登録

〔*〕〔6〕〔0〕 を押し、次に局線特番（例：〔0〕）を押してから〔#〕を押します。

確認音が鳴って登録が完了し、次に交換機番号と局線の機器番号が表示されます。この後、端末は待ち受け状態に戻ります。

表示部

FWD:C/O 011

局線機器番号1*
交換機番号01*

* 局線の名称が登録されている場合は、名称が表示されます。

FWD:ジムショ1

● 消去

〔*〕〔6〕〔0〕 を押し、次に自席の端末番号（例：〔9〕〔2〕）を押してから〔#〕を押します。

確認音が鳴って、消去が完了します。端末は待ち受け状態に戻り、表示部に現在の時刻が表示されます。

11:59am

■ 局線への不在転送の操作

自席の端末への呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずそのまま、登録した局線に自動的に転送されます。



■ ご注意

局線からの呼び出しはすべて、不在転送機能により転送されることなく、自席の端末を直接呼びます。

局線への時刻連動不在転送

■ 機能

一日の特定時間帯に、自席の端末にかかってきたすべての呼び出しを、指定した局線に転送できます。
(P. 3-31 「局線への時刻連動不在転送の操作」の図をご覧ください。)

[システム設定]

- (1) この機能を使うには、システムプログラミングで時刻連動不在転送を使用可能する必要があります。
- (2) 各マスターステーションに対して、転送先の電話番号をシステムプログラミングで個々に登録できます。
- (3) 転送時間帯（開始時間と終了時間）は、システムプログラミングで登録できます。（同一の交換機上で、異なる時間帯を別々の端末に設定できません。）

■ 登録および消去

この機能を登録または消去するには、自席の端末（転送元端末）を使用してください。

● 登 録

[*] [6] [3] を押し、次に局線特番（例：[0]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴って、登録が完了します。

[現在の時刻が転送時間帯に含まれている場合]

自席の端末の表示部に交換機番号と局線の機器番号が表示され、自席の端末が時刻連動不在転送状態にあることを示します。

表示部

FWD:C/O 011

局線機器番号1*

交換機番号01*

* 局線の名称が登録されている場合は、名称が表示されます。

FWD:ジムショ1

[現在の時刻が転送時間帯に含まれていない場合]

現在時刻が表示され、端末は待ち受け状態に戻ります。

11:59am

● 消去

[*] [6] [3] を押し、次に自席の端末番号（例：[9] [2]）を押してから [#] を押します。

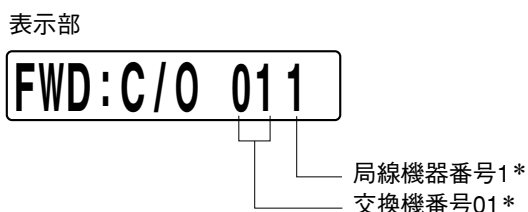
確認音が鳴って、消去が完了します。端末は待ち受け状態に戻り、表示部に現在の時刻が表示されます。

11:59am

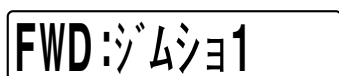
■ 局線への時刻連動不在転送の操作

[時刻連動不在転送が設定されている場合]

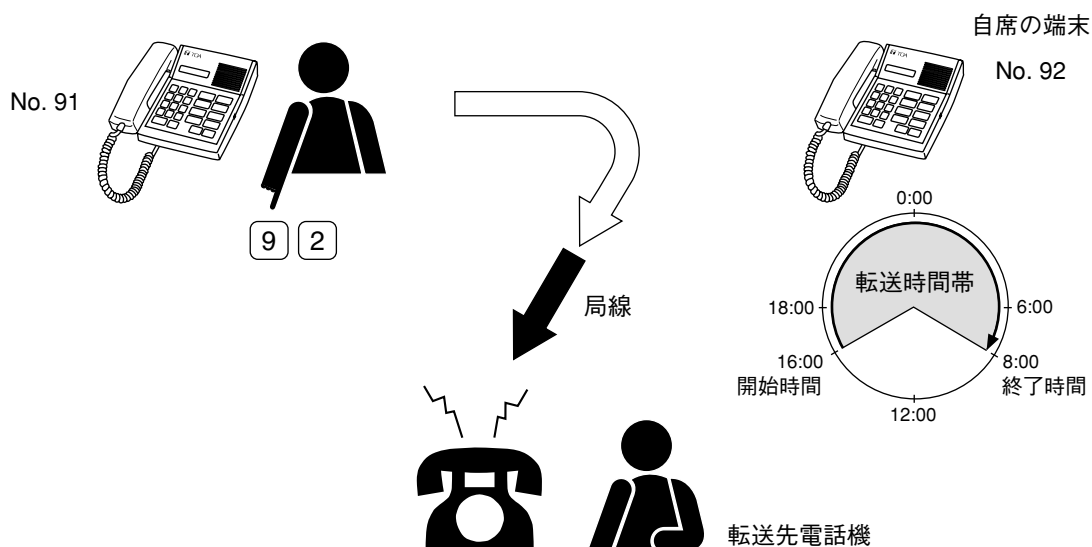
- 1 あらかじめ設定されている転送開始時間になると、端末の表示部に次のように表示され、局線への時刻連動不在転送状態に入ったことを示します。



* 局線の名称が登録されている場合は、名称が表示されます。



- 2 自席の端末（転送端末）にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に指定した局線に転送されます。



ご注意

局線からの呼び出しはすべて、不在転送機能により転送されることなく、自席の端末を直接呼びます。

局線への不応答転送

機能

自席の端末（転送元端末）にかかってきた呼び出しを、あらかじめ設定した特定の時間内に応答がなければ、指定した転送先局線に自動的に転送します。（次ページ「局線不応答転送の操作」の図を参照してください。）

〔システム設定〕

- (1) この機能を使うには、システムプログラミングで、不応答転送機能を使用可能にする必要があります。
- (2) 不応答とみなす時間を、システムプログラミングで1～99秒の間（1秒単位）に設定してください。（同一の交換機上で、端末ごとに異なる時間帯を設定できません。）
- (3) 各マスターステーションに対して、転送先の電話番号をシステムプログラミングで個々に登録できます。

登録および消去

この機能を登録または消去するには、自席の端末（転送元端末）を使用してください。

● 登録

〔*〕〔6〕〔4〕 を押し、次に局線特番（例：〔0〕）を押してから〔#〕を押します。

確認音が鳴り、登録が完了します。現在時刻が表示され、端末は待ち受け状態になります。

● 消去

〔*〕〔6〕〔4〕 を押し、次に自席の端末番号（例：〔9〕〔2〕）を押してから〔#〕を押します。

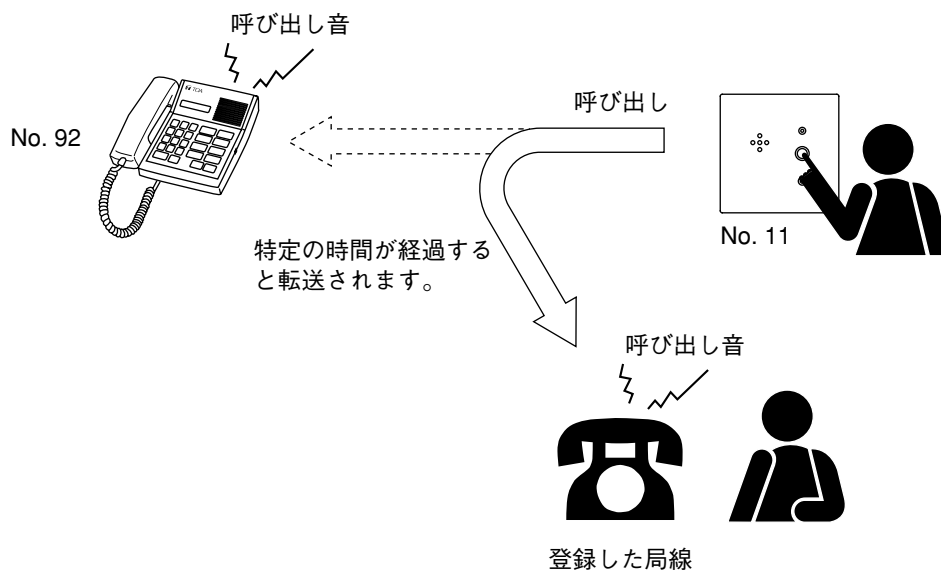
確認音が鳴り、消去が完了します。現在時刻が表示され、端末は待ち受け状態になります。

11:59am

■ 局線不応答転送の操作

[局線不応答転送に設定されているとき]

- 端末に現在の時刻が表示されます。
- 自席の端末（転送元端末）にかかってきた呼び出しは、特定の時間内に応答しなければ、登録した局線に自動的に転送されます。



ご注意

- 局線からの呼び出しは、不応答転送機能により転送されません。
- 転送先の局線が使用中のときは、転送されません。
- 不応答転送に設定されている端末がグループ呼び出しの代表端末の場合、サブステーションからの呼び出しはグループ呼び出しされ、転送されません。（グループ呼び出しが優先されます。）

局線への話中転送

機能

通話中の端末にかかってきた呼び出しを、指定した転送先局線に転送します。

[システム設定]

- (1) この機能を使うには、システムプログラミングで、話中転送機能を使用可能にする必要があります。
- (2) 転送先端末が通話中のときは、転送されません。

登録および消去

この機能を登録または消去するには、自席の端末（転送元端末）を使用してください。

● 登録

[*] [6] [5] を押し、次に局線特番（例： [0]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴り、登録が完了します。現在時刻が表示され、端末は待ち受け状態になります。

11:59am

● 消去

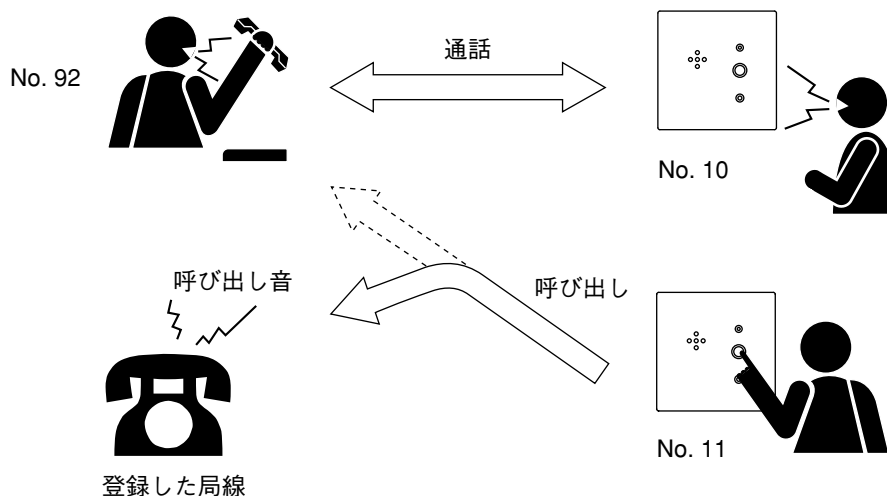
[*] [6] [5] を押し、次に自席の端末番号（例： [9] [3]）を押してから [#] を押します。

確認音が鳴り、消去が完了します。現在時刻が表示され、端末は待ち受け状態になります。

11:59am

■ 局線話中転送の操作

通話中の端末（例：92）にかかってきた呼び出しは、登録した局線に転送されます。



ご注意

- 局線からの呼び出しは、話中転送機能により転送されません。
- 転送先の局線も使用中のときは転送されません。自席の端末（例：[9] [2]）または転送先の局線のどちらか先に空いた方につながります。
- 話中転送に設定されている端末がグループ呼び出しの代表端末の場合、サブステーションからの呼び出しはグループ呼び出しされ、転送されません。（グループ呼び出しが優先されます。）

会議に関連した機能

3 者会議（個別呼び出し会議）

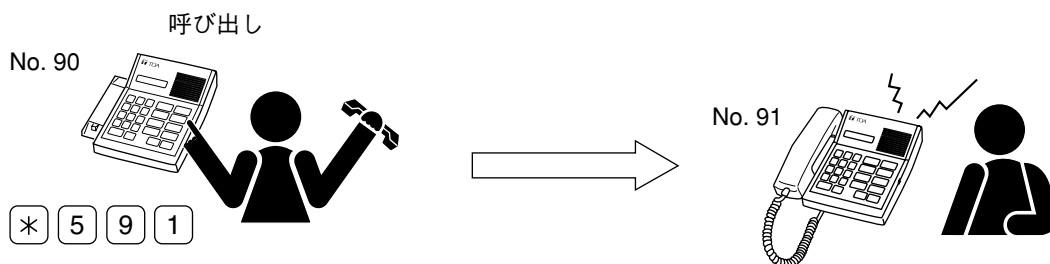
機能

マスターステーションから他のマスターステーションを個別に呼び出し、3者による会議ができます。

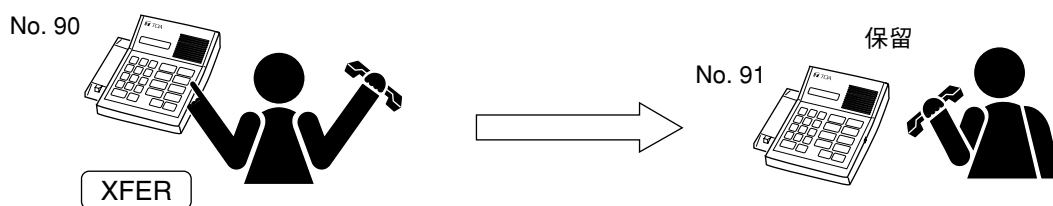
3 者会議のダイヤル操作

● 3 者会議を行う方法

- 1 **1** [*] [5] をダイヤルし、次に第2者の端末番号（例：[9] [1]）をダイヤルします。
第2者が応答すると、第1者と第2者との間で通話を始めることができます。

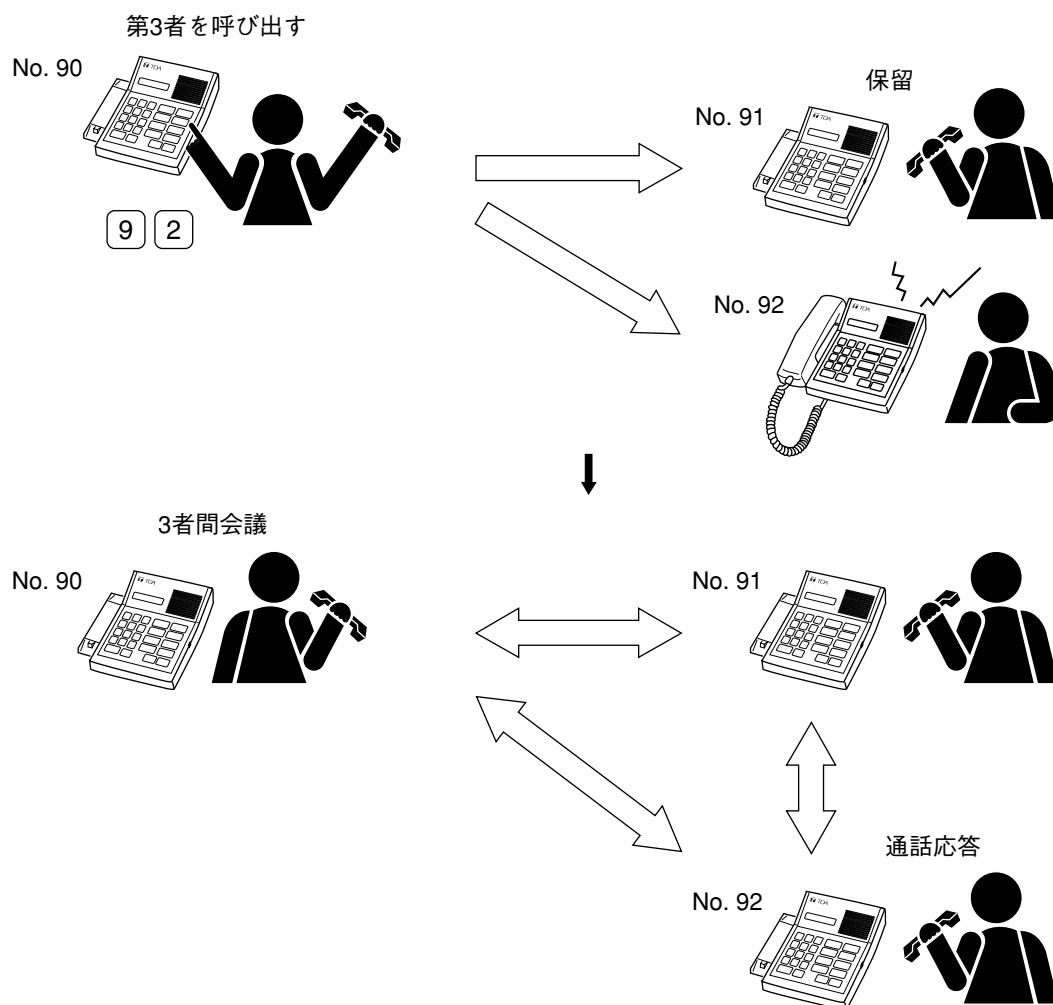


- 2 **2** [XFER] キーを押す。
第2者が保留されます。



3 第3者の端末番号（例：[9] [2]）をダイヤルする。

第3者が応答すると、第2者が保留状態から解除され、3者間で通話できます。



4 会議を招集した端末のハンドセットを置くかあるいはその [C] キーを押す。 会議が終了します。



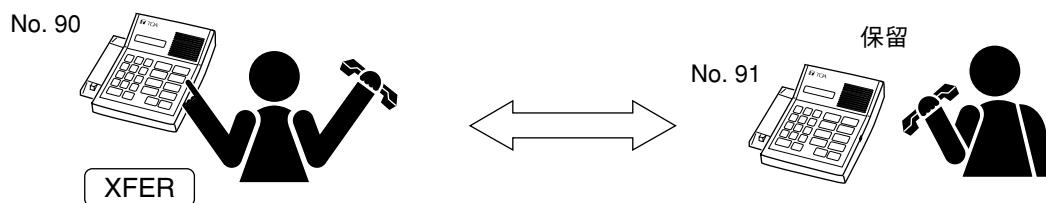
招集端末以外の端末が会議状態から抜けるには、ハンドセットを置くかあるいは [C] キーを押します。

ご注意

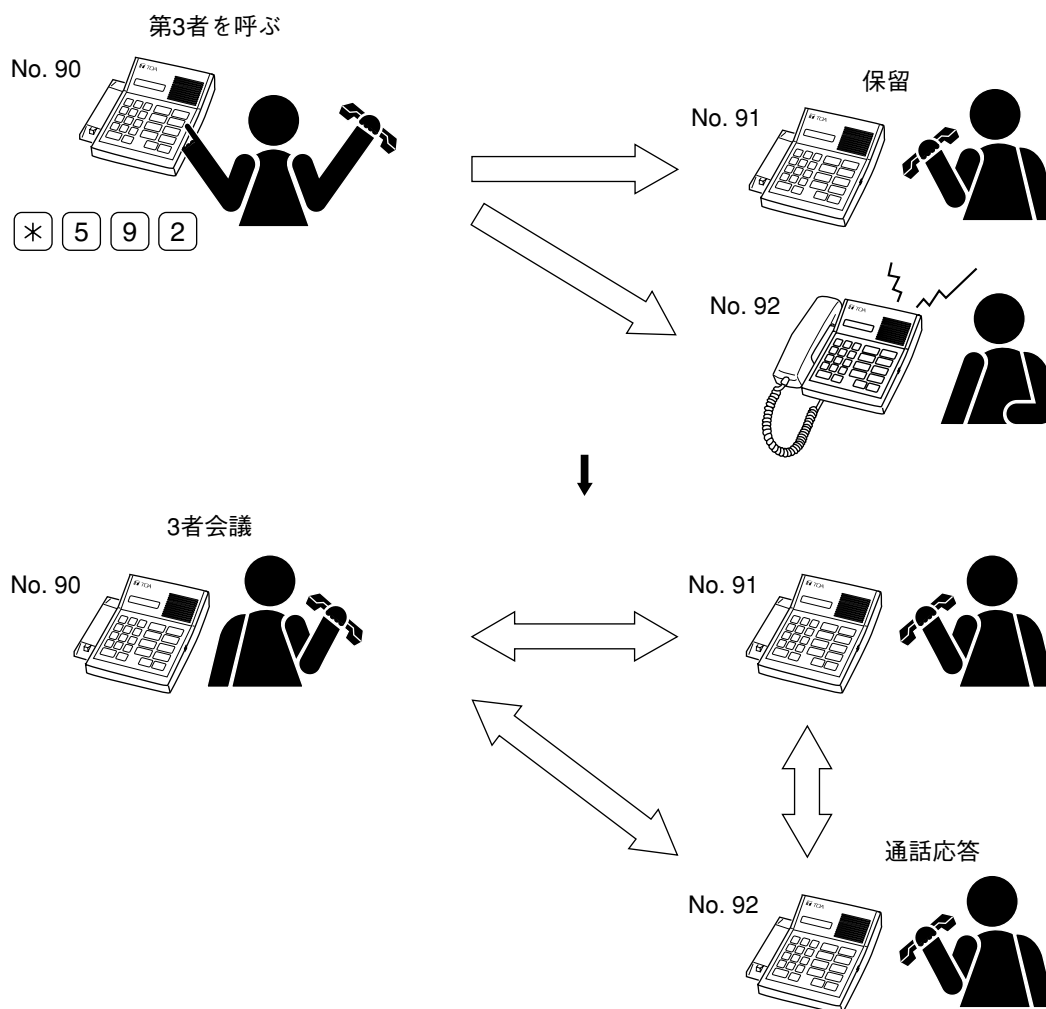
操作の詳細については、P. 3-39「3者会議の操作の詳細」を参照してください。

● 2者間通話から3者会議を始める方法

- 1** 第2者につながっているときに [XFER] キーを押す。
第2者が保留されます。

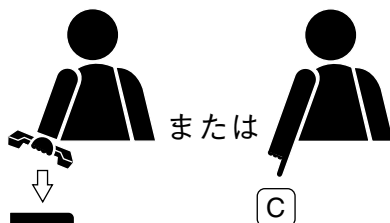


- 2** [*] [5] をダイヤルし、次に第3者の端末番号（例：[9] [2]）をダイヤルする。
第3者が応答すると、第2者が保留状態から解除され、3者間で通話できます。



- 3** 会議を招集した端末のハンドセットを置くかあるいはその [C] キーを押す。
会議が終了します。

No. 90



メ モ

招集端末以外の端末が会議状態から抜けるには、ハンドセットを置くかあるいは [C] キーを押します。

● 3者会議の操作の詳細

- (1) 呼び出されたマスターステーションが [PTT] キーを押して応答すると、発呼者の声が端末スピーカーから聞こえます（ハンズフリー音声受信モード）。話すときにはハンドセットを持ち上げてください。
- (2) 呼び出されたマスターステーションに不在転送機能が設定されている場合
 - (a) 転送先がマスターステーションであれば、その会議呼び出しは自動的に転送されます。
 - (b) 転送先が局線であれば、その会議呼び出しは転送されません。
- (3) 会議用回線が使用中のときには、発呼者の端末で話中音が流れ、自動的に元の2者通話に戻ります。
- (4) 呼び出された第3者が通話中のときには、話中音が流れます。第3者の通話が終わり次第、自動的に発呼者につながります（キャンプオンビジー機能）。
- (5) 第3者を呼び出している間にコールバック機能*¹を使うと、呼び出しは中止され、元の通話に戻ります*²。

*¹ [XFER] キーを押してください。

*² 第3者を呼び出している間にハンドセットを置くか、または [C] キーを押すと、会議が終了します。

緊急会議

機能

緊急の場合に、マスターステーションが、そこに登録されている他のマスターステーションを簡単な操作で呼び出し、最大4人までの間で会議することができます。

[システム設定]

この機能を使うには、システムプログラミングで、各マスターステーションに対して、最大3台までのマスターステーションを個別に割り当てる必要があります。

緊急会議のダイヤル操作

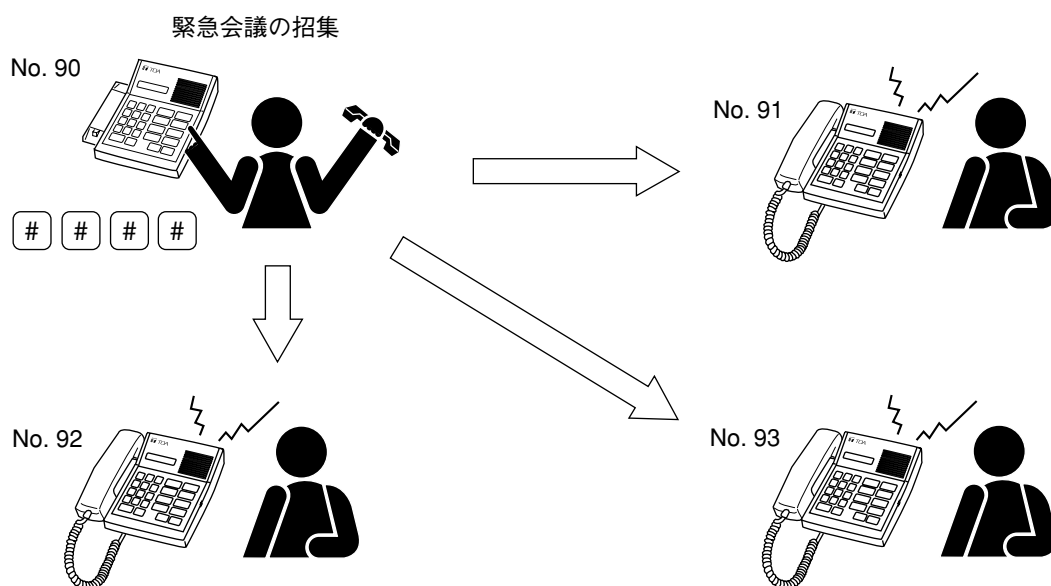
1 [#] [#] [#] [#] をダイヤルする。(発呼者の端末が招集端末になります。)

最大3台までの登録したマスターステーションを同時に呼び出します。

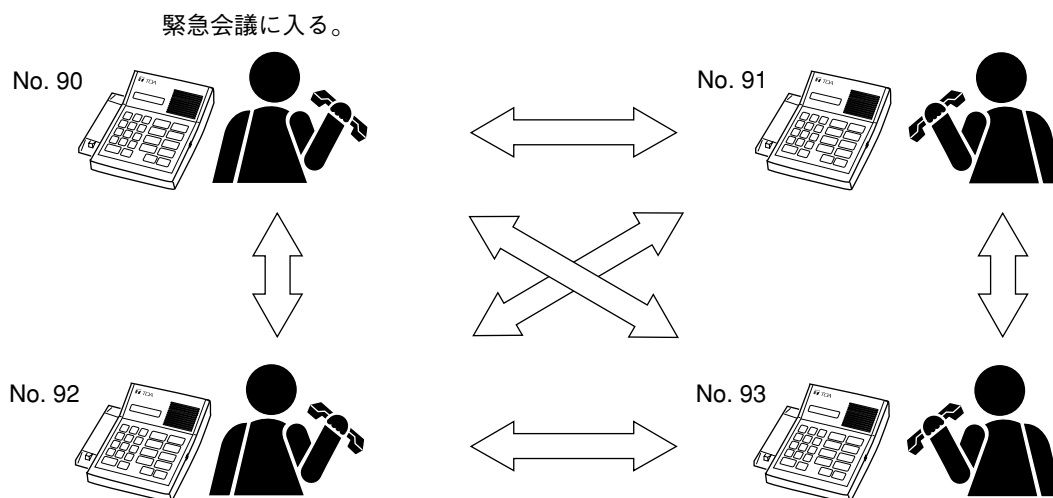
呼び出されたマスターステーションは、応答をしなくても、短い呼び出し音の後自動的にハンズフリー受信モードに切り換わります。

ご注意

呼び出された相手は、話をするときはハンドセットを持ち上げなければなりません。[PTT] キーを使用して話すことはできません。



- 2** 呼び出されたマスターステーションは、ハンドセットを持ち上げる。
会話モードに入ることができます。



- 3** 招集端末がハンドセットを置くか、または [C] キーを押す。
会議は終了します。



メモ

招集端末以外の端末が会議状態から抜けるには、ハンドセットを置くかあるいは [C] キーを押します。

[機能の詳細]

他の人が緊急会議用の回線を使用しているときは、話中音が招集端末に流れ、招集端末は待ち受け状態に戻ります。

第4章

ダイヤル操作と 優先順位の概要

マスターステーションの操作一覧表

機能		項目	操作	備考
呼び出し/応答		呼び出し	端末番号[×][×]([×][×][×][×])をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		応答	ハンドセットを持ち上げるか [PTT] を押す。	
		選択応答	[REDIAL]で呼び出す端末を選んでからハンドセットを持ち上げる。 [REDIAL]で呼び出す端末を選んでから[PTT]を押す。	
通話		プレストーク通話	話すときには [PTT] を押す。 聞くとときには [PTT] を離す。	
		同時通話	片方または両者がハンドセットを持ち上げる。	マスターステーション間
短縮ダイヤル		オートダイヤル	オートダイヤルキー（ [1] ～ [8] ）を押す。	
		リダイヤル	[REDIAL] を押す。	
転送		転送	通話中に [XFER] を押す。 →相手は保留される。 第3者の番号をダイヤルして呼び出す。 →第3者との通話。（コールホールド） ハンドセットを置くか [C] を押す。 →転送が終了。	サブステーションは不可 （コールホールドは可能） 局線には転送不可
		コールバック	通話中に [XFER] を押す。 →相手は保留される。 第3者の番号をダイヤルして呼び出す。 →第3者との通話。（コールホールド） [XFER] を再び押す。 →元の通話に戻る。（コールバック）	
自動転送	不在転送	転送元端末での登録	[*][6][0][転送先端末番号][#]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		転送元端末での消去	[*][6][0][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
		転送先端末での登録	[*][6][1][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
		転送先端末での消去	[*][6][2][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
	時刻連動不在転送	登録	[*][6][3][転送先端末番号][#]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		消去	[*][6][3][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
	不応答転送	登録	[*][6][4][転送先端末番号][#]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		消去	[*][6][4][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
	話中転送	登録	[*][6][5][転送先端末番号][#]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		消去	[*][6][5][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
スキャンモニター		開始	[*][2] をダイヤルする。	
		停止・再開	停止は [0] を、再開は再度 [0] を押す。	モニター中にダイヤル
		スキャン進む	サブステーションのモニターを進めるには[#]を押す。	
		スキャン戻る	サブステーションのモニターに戻すには [*] を押す。	
		音声送信	話すときには [PTT] を押す。	
		終了	ハンドセットを置くか、 [C] を押す。	
ページング		ゾーンページング	[*][8][ゾーン番号][ゾーン番号][ゾーン番号] … [ゾーン番号][#] をダイヤルする。	ゾーン番号：1～2桁
		一斉ページング	[*][8][0]([0])[#]をダイヤルする。	
		緊急一斉ページング	[*][*][*][*]をダイヤルする。	
		ページングリダイヤル	[*][8][#]をダイヤルする。	
局線		呼び出し	局線特番をダイヤルする。	特番：0～9
		応答	ハンドセットを持ち上げる。	
局線不在転送		登録	[*][6][0][特番][#]をダイヤルする。	特番：0～9
		消去	[*][6][0][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
局線時刻連動不在転送		登録	[*][6][3][特番][#]をダイヤルする。	特番：0～9
		消去	[*][6][3][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
局線不応答転送		登録	[*][6][4][特番][#]をダイヤルする。	特番：0～9
		消去	[*][6][4][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
局線話中転送		登録	[*][6][5][特番][#]をダイヤルする。	特番：0～9
		消去	[*][6][5][転送元端末番号][#]をダイヤルする。	
会議		3者会議	[*][5][端末番号]をダイヤルする。→2者通話 [XFER][端末番号]をダイヤルする。→3者通話 [XFER][*][5][端末番号]を双方向通話中にダイヤルする。 →3者通話	端末番号：2～6桁
			緊急会議	[#][#][#][#] をダイヤルする。

優先順位

VS-900 システムでは、呼び出し優先と通話路優先の2つの優先順位があります。

(1) 呼び出し優先

マスターステーションに同時にかかった複数の呼び出しの優先順位を決めます。

(2) 通話路優先

交換機の通話路に優先順位を割り当て、システム全体の優先通話や優先呼び出しを決めます。この優先順位に従って通話を終了させ、あるいは呼び出しを待ち受け状態に切り換えます。

■ 呼び出し優先

● 呼び出し優先順位および呼び出し音（マスターステーションへの呼び出し）

マスターステーションにかかった呼び出しの優先順位を以下に示します。

[呼び出し優先順位]

1. 緊急会議呼び出し
2. 緊急用サブステーションからの呼び出し
3. 局線からの呼び出し
4. 通常サブステーションからの呼び出し
5. マスターステーションからの呼び出し

[呼び出し音]

上記の呼び出しには、以下の種類の音を使います。

- (1) 緊急会議呼び出し音
- (2) 緊急用サブステーション呼び出し音
- (3) 局線呼び出し音
- (4) 通常サブステーション呼び出し音
- (5) マスターステーション呼び出し音

● サブステーションへの呼び出し

サブステーションに同時に複数の呼び出しがあった場合、最初にかかってきた呼び出しがつながり、それから後の呼び出しに優先順位はありません。呼び出し音は1種類です。

■ 通話路優先

交換機の通話路に優先順位を割り当て、システム全体の優先通話や優先呼び出しを決めます。

〔通話路優先順位〕

1. 緊急一斉ページング
2. 緊急会議
3. 局線通話
4. 緊急用サブステーションからの呼び出し
5. 外部音源放送
6. 一斉ページング
7. ゾーンページング
8. 通常の通話

次の表は、優先動作を示しています。

通話路優先マトリックス表

現在の状態	起動（呼び出しと放送）				
	緊急一斉ページング	緊急会議（マスターステーション）	外部音源放送	一斉ページング	ゾーンページング
緊急一斉ページング	=	=	×	=	=
緊急会議（マスターステーション）	○	×	—	—	—
局線通話	○	○	△	×	×
緊急用サブステーション	○	○	△	×	×
外部音源放送	○	○	×	×	×
一斉ページング	○	○	○	×	×
ゾーンページング	○	○	○	○	×
通常の通話	○	○	○	○	○

=：無視される。（呼び出しや放送はされない。）

—：実行できる。（現在の放送とは競合しない。）

△：競合する端末を除いて実行できる。（除いた端末については、現在の通話や放送が終わっても、起動は実行されない。）

×：現在の通話や放送が終わると、直ちに起動される。

○：その起動により、現在の通話や放送が終わる。

第5章

パソコン制御の機能

パソコンインターフェースソフトの役割

第1章から4章までに説明した通話、放送機能は、システムを実際に使う前に、各機能に対する個別ラインの割り当て、端末番号計画、機能詳細、その他のデータを交換機に登録することによってのみ使うことができます。（各機能を使うのに必要な設定項目は、それぞれの章の「システム設定」に示してあります。）こうした設定をするには、専用のソフトが入ったパソコンを、交換機に接続する必要があります。この専用ソフトを使えば、一般的な制御や保守設定のみならず、システムプログラミング機能をも行うことができます。

ご注意

- マスターステーションで登録した機能の中で、前もってシステムプログラミングが必要な機能がいくつかあります。
- 本章では、システムプログラミングを必要とする機能のみを説明します。これらの機能の設定については、「VS-900 設定ソフト取扱説明書」を参照してください。

システムプログラミング（データの設定）

■ システム設定

設定項目	内容
交換機台数	全体のシステムで使う交換機の台数（1～16台）を設定する。
端末番号桁数	システムの端末番号を決めるための桁数（2～6桁）を設定する。
タイライン接続回線	タイライン接続ライン1～4を使うかどうか設定する。
交換機端末番号範囲設定	各交換機に接続する最初の端末番号を設定する。番号の範囲は、設定した端末番号桁数による。

■ 回線設定

(1) マスターステーションの設定

交換機の番号を指定してマスターステーションの属性を登録します。

設定項目	内容
端末番号	端末番号を設定する。各端末番号は、システムプログラミングで設定した桁数と同じでなければならない。
名称	マスターステーションの名称を設定する。（8文字までの英数カタカナ）
局線発信操作	各端末に局線発信を許可するかどうか設定する。
緊急一斉ページング操作	各端末に緊急一斉ページングを許可するかどうか設定する。
局線自動転送先	かかってきた呼び出しを自動的に転送する転送先電話機の番号（最大20桁）を設定する。
不在転送先*	不在転送の転送先マスターステーションの端末番号の局線発信特番を設定する。すべての交換機に接続される端末番号を登録できる。局線発信特番は該当する交換機に割り当てられた番号と同じでなければならない。転送先端末を指定しなくてもよい。

設定項目	内容
時刻連動不在転送先*	時刻連動不在転送の転送先マスターステーションの番号または局線発信特番を設定する。すべての交換機に接続される端末番号を登録できる。局線発信特番は、該当する交換機に割り当てられた番号と同じでなければならない。転送先端末を指定しなくてもよい。
話中転送先*	話中転送の転送先マスターステーションの番号または局線発信特番を設定する。すべての交換機に接続される端末番号を登録できる。局線発信特番は、該当する交換機に割り当てられた番号と同じでなければならない。転送先端末を指定しなくてもよい。
不応答転送先*	不応答転送の転送先マスターステーションの番号または局線発信特番を設定する。すべての交換機に接続される端末番号を登録できる。局線発信特番は、該当する交換機に割り当てられた番号と同じでなければならない。転送先端末を指定しなくてもよい。

* この設定は、マスターステーションでも可能。各転送機能を説明している項を参照のこと。

(2) サブステーションの設定

交換機の番号を指定してサブステーションの属性を登録します。

設定項目	内容
端末番号	選んだ交換機の最初の端末番号から、次の交換機の最初の端末番号の1つ前の番号までの範囲で端末番号を設定する。（「システム設定」を参照のこと。）
名称	サブステーションの名称を設定する。（8文字までの英数カタカナ）
呼び出し先交換機番号	呼び出しすマスターステーションが接続される交換機を設定する。
呼び出し先機器番号	呼び出すマスターステーションの機器番号を設定する。
呼び出し先端末番号	呼び出すマスターステーションの端末番号を設定する。
呼び出し優先順位	呼び出しの優先度を「ノーマル」または「緊急」に設定する。

(3) 局線の設定

交換機の番号を指定して局線の属性を登録します。

設定項目	内容
局線接続時間制限	局線接続時間制限機能を使用するかどうかに設定する。通話の制限時間を設定する（1～99分）。
名称	局線の名称を設定する。（8文字までの英数カタカナ）
発信特番	局線発信のための特番（0～9）を設定する。
ダイレクトインダイヤル着信	ダイレクトインダイヤル着信機能を使用するかどうかに設定する。
ダイレクトインライン着信	ダイレクトインライン着信機能を使用するかどうかに設定する。
着信端末交換機番号	ダイレクトインライン着信機能を使用するとき、着信グループ（1台の代表端末と3台のメンバー端末）の交換機番号を各マスターステーションに対して設定する。
着信端末機器番号	ダイレクトインライン着信機能を使用するとき、着信グループ（1台の代表端末と3台のメンバー端末）の機器番号を各マスターステーションに対して設定する。
着信端末端末番号	ダイレクトインライン着信機能を使用するとき、着信グループ（1台の代表端末と3台のメンバー端末）の端末番号を各マスターステーションに対して設定する。

■ 機能設定

(1) グループ呼び出しの設定

代表マスターステーションを指定し、メンバー端末を登録する。

設定項目	内容
交換機番号	マスターステーションの交換機番号（1～16）を設定する。
機器番号	マスターステーションの機器番号（1～4）を設定する。
端末番号	マスターステーションの端末番号を設定する。

(2) 転送と時間制限の設定

交換機番号を指定し、自動転送機能や時間制限機能などを登録する。

設定項目	内容
不在転送	不在転送機能を使用するかどうかを設定する。
時刻連動不在転送	時刻連動不在転送機能を使用するかどうかを設定する。
時刻連動不在転送開始時間	転送時間帯が始まる時刻を設定する。（00:00～23:59）
時刻連動不在転送終了時間	転送時間帯が終わる時刻を設定する。（00:00～23:59）
話中転送	話中転送機能を使用するかどうかを設定する。
不応答転送	不応答転送機能を使用するかどうかを設定する。 使用可能にするときは、端末の呼び出し時間（1～99秒）を設定する。
呼び出し時間制限	呼び出し時間制限機能を使用するかどうかを設定する。 使用可能にするときは、端末の呼び出し時間（1～99分）を設定する。
通話時間制限	通話時間制限機能を使用するかどうかを設定する。 使用可能にするときは、通話制限時間（10～990秒）を設定する。

(3) スキャンモニターの設定

マスターステーションを指定し、モニターするサブステーションを登録する。

設定項目	内容
モニター時間	スキャンモニターする時間（1～99秒）を設定する。
交換機番号	サブステーションが接続される交換機の番号（1～16）を設定する。
機器番号	サブステーションの機器番号（1～64）を設定する。
端末番号	サブステーションの端末番号を設定する。

(4) ページング設定

交換機番号を指定し、ゾーンに割り当てるサブステーションを設定する。

設定項目	内容
ゾーン番号の桁数	ページングゾーン番号の桁数（1～2）を設定する。
ページング時間制限	ページング時間制限機能を使用するかどうかを設定する。 使用可能にするときは、ページング呼び出しの制限時間（10～990秒）を設定する。
ゾーン	各ゾーンに割り当てるサブステーションを設定する。

(5) 外部拡声機器の設定

交換機番号を指定し、ゾーンに割り当てる制御出力を設定する。

設定項目	内容
ゾーン	各ゾーンに割り当てる外部拡声機器出力を設定する。

(6) 外部入力放送の設定

交換機番号を指定し、制御入力に対応するゾーンを設定する。

設定項目	内容
ゾーン	各起動入力に対してページングゾーンを設定する。

(7) 緊急会議の設定

緊急会議の招集マスターステーションを指定し、参加マスターステーションを設定する。

設定項目	内容
交換機番号	マスターステーションが接続される交換機番号（1～16）を設定する。
機器番号	マスターステーションの機器番号（1～4）を設定する。
端末番号	マスターステーションの端末番号を設定する。

(8) ダイレクトセレクトの設定（VS-910DIカードからのリレー出力）

交換機番号を指定し、以下の内容を設定する。

設定項目	内容
制御出力モード	外部機器制御出力動作モード（通話開始時メイク、または呼び出し開始時メイク）を設定する。

保守・制御機能

機能	内容
リモートダイヤル	マスターステーションの代わりにパソコンから、交換機番号とマスターステーションの端末番号を指定して、ダイヤルを遠隔操作できます。
履歴データ	各交換機の動作記録を読み出したり、印刷したり、ハードディスクへ保存したりできます。
通信モニター	交換機間の通信データを読み出したり、印刷したり、ハードディスクへ保存したりできます。
交換機とのデータ送受信	データの送受信ができます。
設定データ印刷	交換機の設定内容を印刷できます。
PCポート	パソコンと交換機間の接続方法とCOMポートを設定できます。

VS-900DIJ の設定

この機能は、VS-900DIJ ユニットを使用するときに登録します。登録する機能については、「VS-900DIJ/VS-910DI 取扱明書」を参照してください。



TOA インフォメーションセンター	フリーダイヤル（無料電話） TEL. 0120 - 108 - 117
商品や技術など、お問い合わせにお応えします。 受付時間 9:00 ～ 17:00（日曜・祝日除く）	〒665-0043 宝塚市高松町2番1号 TEL. (0797) 72-7567 FAX. (0797) 72-1090

商品の価格、在庫、修理およびカタログのご請求については、取扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。